

臨地実習に関するアンケート調査【A 調査】報告書

一般社団法人日本看護系大学協議会
看護学教育質向上委員会

看護学教育質向上委員会において臨地実習に関するアンケート調査を行った。調査結果について報告する。

I. 目的

コロナ禍前時点で、臨地実習において学生がどのような経験をしているのか実態を把握するとともに、今後の看護学教育の質向上のために必要な支援体制（Computer Based Testing : CBT や Objective Structured Clinical Examination : OSCE など）の提言や教材開発（Digital Transformation : DX など）の示唆を得ることを目的とした。

II. 調査方法

1. 対象

2023年1月時点での会員大学295課程であった。

2. データ収集方法

サーベイモンキーを用いたWeb調査およびExcel調査を行った。

3. 調査期間

2023年1月26日から3月3日であった。

調査期間終了後に提出のあった回答を1件追加している。

4. 設問内容

大きく以下3点について尋ねた。なお、臨地実習の実態についてはコロナ禍前の状況で尋ねた。

- 1) 看護系大学生の卒業時到達度達成のための臨地参加型実習の必要性
- 2) 臨地参加型実習の実施状況、領域別臨地実習で経験している看護技術
- 3) 全国共通のCBT・OSCEの必要性および必要と思うもの

5. 用語の定義

本調査において臨地参加型実習を以下のように定義した。

「看護学生が医療チームの一員として、臨地実習指導者の指導の下、一定の役割と責任を担いながら看護師の職業的な知識・思考法・技能・態度の基本的な部分を学ぶことを目的とする。単なる知識・技能の習得や看護実践の経験に留まらず、実際の患者を相手にした業務を通じて、医療現場に立った時に必要とされる思考・対応力をも養う。」

6. 分析方法

単純集計と自由回答については類似する内容をまとめて、該当する回答件数を示した。自由回答につ

いては、1つの回答で複数の内容を回答している場合もある。

Ⅲ. 調査結果

回答数は会員校 295 課程中、214 課程（国立・省庁大学校 32 校、公立 42 校、私立 140 校）で回収率 72.5%（国立・省庁大学校 72.7%、公立 84.0%、私立 69.7%）であった。

1. 回答校の概要

回答した会員校の看護系学部・学科年数は最も多い回答が 9 年、次に多い回答が 15 年と 25 年であった（図 1）。看護系学部・学科の 1 学年の学生定員数では、80 名が最も多く、次に多い回答は 100 名であった（図 2）。

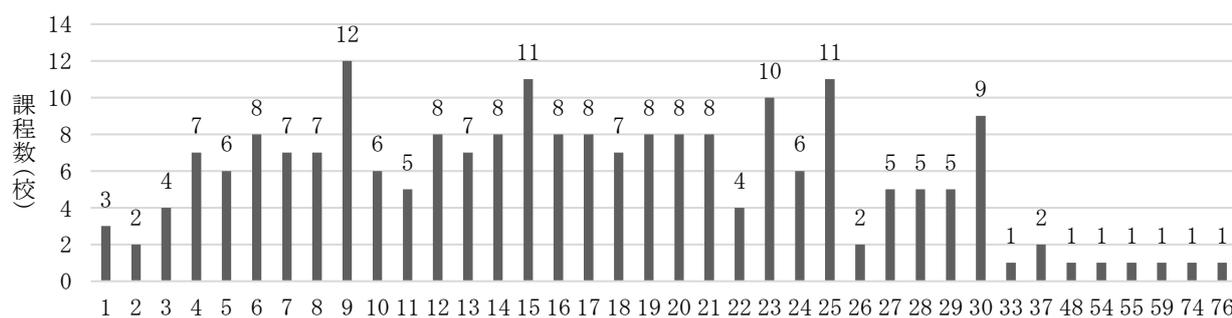


図 1 看護系学部・学科の設置年数

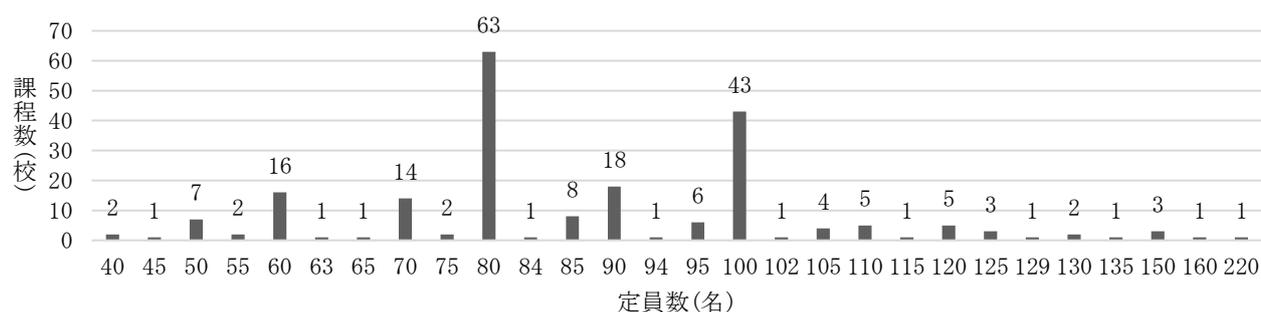


図 2 看護系学部・学科の 1 学年の学生定員数

2. 看護系大学学生の卒業時到達度達成のための臨地参加型実習の必要性について

看護系大学生の卒業時到達度達成のための臨地参加型実習について、198 校 92.5%の会員校が必要だと思うと回答した（表 1）。必要だと思う理由については、163 校が回答し、最も多い回答は「現場で患者や医療チームとかわかることで思考力、対応力、柔軟性、判断力、倫理的側面の考慮、態度、対人関係形成力が培われる」73 件であった（表 1-1）。必要だと思わない理由は 1 校が回答した（表 1-2）。どちらともいえない理由では、13 校が回答し、最も多い回答が「臨地で経験できないところもある」3 件であった（表 1-3）。

表 1 看護系大学生の卒業時到達度達成のための臨地参加型実習の必要性 n=214

設置主体	必要だと思う	必要と思わない	どちらともいえない	回答数
国立・省庁大学校	30 (93.8%)	0 (0.0%)	2 (6.3%)	32
公立	40 (95.2%)	0 (0.0%)	2 (4.8%)	42
私立	127 (91.4%)	1 (0.7%)	11 (7.9%)	139
全体	198 (92.5%)	1 (0.5%)	15 (7.0%)	214

表 1-1 看護系大学生の卒業時到達度達成のための臨地参加型実習の必要性<必要だと思う理由>n=163

主な内容	件数
現場で患者や医療チームとかかわることで思考力、対応力、柔軟性、判断力、倫理的側面の考慮、態度、対人関係形成力が培われる	73
実践科学には不可欠である（学内演習では学べない価値）	45
人間関係構築スキル、感情コントロールの方法を学ぶことができる	30
リアリティショック軽減、卒後すぐに要求される技術を習得する	18
根拠に基づいた個別性のある看護の実践と専門性へと結びつけることができる	17
学習へ興味、動機づけ、課題が高まる	13
現場の経験から基本的な看護技術を学習する	10
看護の適性を振り返る機会となり、キャリアビジョンに影響を与える	8
看護する喜びやモチベーション、責任感を得られる	6
社会的学習が必要である（育むことが出来る）	3

表 1-2 看護系大学生の卒業時到達度達成のための臨地参加型実習の必要性<必要と思わない理由>n=1

主な内容	件数
臨地参加型実習の定義に合致する実習ができ得るかどうか疑問。看護師養成は大学だけで行っているわけではない。すべての看護師養成校、そしてすべての実習施設が全く同じ視点で実施することが可能でなければ、一部の養成校・実習施設で実施できたとしても意味を持たないと考える。	1

表 1-3 看護系大学生の卒業時到達度達成のための臨地参加型実習の必要性<どちらともいえない理由>n=13

主な内容	件数
臨地で経験できないところもある	3
業務を通じて行うことで「看護の基本」が学べない可能性がある	2
望ましいと思うが、受け入れ病院の現状から難しい	1
学生の学習状況で可能か未知数である。	1
大学教員の指導力や人数制限から実現可能性が難しい	1
学習の到達度が臨地参加型実習としていない	1
臨地参加型実習と従来の臨地実習との違いが理解しづらい	1
実習時間や期間の見直しが必要である	1
学内実習、臨地実習どちらもメリットがある	1
シミュレーション教育の発展により、その方が効果的な場合がある	1
卒後初期研修制度があれば不要である	1
臨地参加型実習の学内の共通理解がまだない	1

領域別臨地実習における臨地参加型実習の実施状況では、「全体的にできている」という回答が 103 校 48.1%、「一部出来ている」という回答が 90 校 42.1%、「全くできていない」という回答が 5 校 2.3%、「その他」という回答が 16 校 7.5%であった（表 2）。

表 2 領域別臨地実習における、臨地参加型実習の実施状況 n=214

設置主体	全体的にできている	一部できている	全くできていない	その他	回答数
国立・省庁大学校	14 (43.8%)	16 (50.0%)	1 (3.1%)	1 (3.1%)	32
公立	22 (52.4%)	17 (40.5%)	1 (2.4%)	2 (4.8%)	42
私立	67 (47.9%)	57 (40.7%)	3 (2.1%)	13 (9.3%)	140
全体	103 (48.1%)	90 (42.1%)	5 (2.3%)	16 (7.5%)	214

表 3 領域別臨地実習では、臨地参加型実習ができているか<その他の理由>n=16

主な内容	件数
臨地参加型実習と従来の臨地実習が理解しづらく回答できない	2
実習指導者によってできている場合もある	1
厳密に定義に合致する実習ができているかについては言及できない	1
実習場と連携強化している	1
領域により差がある	1
臨地参加型実習の学内の共通理解がまだない	1
非該当	10

「1. 全体的にできている、または2. 一部で来ている」場合の工夫や先進的な取り組みは139校の回答があり、最も多かった回答は「コミュニケーション、情報交換などの密な連携」32件であった(表4)。

表 4 臨地参加型実習を行うための工夫や先進的な取り組み n=139

主な内容	件数
コミュニケーション、情報交換などの密な連携	32
常駐で担当教員配置	25
事前打合せでの学習、実習内容確認	23
実習先と協議会、交流会、学習会の開催と相互理解	20
実習指導体制を実習施設と構築、強化	20
病棟の実習指導者の確保や連携	19
実習指導ガイドラインを作成	14
実習指導者会議(振り返りと課題抽出)の実施	12
感染防止対策ガイドラインの作成と周知	12
安全管理体制の構築	9
実習要項の作成	9
ワクチン接種奨励、抗体価検査などの健康管理の徹底	8
実習到達度の明確化と共有	7
臨床教授体制の導入	7
指導を受けながらの実施	6
効果的な実習場所の開拓、確保	5
日頃からの臨床側の要望に応えたり意見を述べる機会がある	4

実習指導研修を学内で開催	3
受け持ち以外の患者のシャドーイングや積極的な体験を入れる	2
多職種メンバーとの連携やカンファレンス設定	2
臨地実習とシミュレーション担当の交換により連続的経験をしてもらう	2
関連病院での受け入れ	2
実習実施については実習施設の方針、ガイドラインに従う	2
准教授、講師、助教が実習準備に所属	1
学部の実習部会構成メンバーに病院看護部教育担当を配置	1
実習内容に偏りが無いよう配慮	1
学生の意見や持つ情報の活用	1
シミュレーション学習	1
他施設で受け入れ中止となった場合の追加受け入れの受諾	1
チームの一員として実習をする科目を設ける	1
時間的な工夫	1
教員のFD	1
保険加入	1
学内での模擬訪問実施	1

臨地参加型実習ができていない理由として最も多かったのは、「1. 実習施設が、医療安全の面からリスクを減らすために実施を制限している」が77件87.5%、次に多かったのは、「3. 実習前の学生の技術レベルが不十分であり実施できない」が、33件37.5%であった（表5）。その他の回答は20校からあり、多かった回答は「臨地実習指導者の人的・時間的コミットメントを増やす必要がある」「病院側で看護師が行う行為が決められている」「患者特性より学生では対応が難しいケースが多い」が各2件であった（表6）。

表5 臨地参加型実習ができていない理由（複数回答可）n=88

理由	回答数%
1. 実習施設が、医療安全の面からリスクを減らすために実施を制限している	77 (87.5%)
2. 臨地実習指導者の関わりが不十分であり実施できない	28 (31.8%)
3. 実習前の学生の技術レベルが低く実施できない	33 (37.5%)
4. 大学の実習担当教員の技術・指導力不足で、実施ができない	9 (10.2%)
5. その他	20 (22.7%)

表6 臨地参加型実習ができていない理由<その他>n=20

主な内容	件数
臨地実習指導者の人的・時間的コミットメントを増やす必要がある	2
病院側で看護師が行う行為が決められている	2
患者特性より学生では対応が難しいケースが多い	2
実習場の指導者レベルで教育にバラツキがある	1

指導者と教員で具体を共有しないと難しい	1
実習の目的となっていない	1
基礎的能力の習得を目的とした範囲内で受け持ち患者によってはできている	1
教員数に限りがあり関われない	1
領域によって多様性がある	1
学生の学習ペースの違いがある	1
複数施設で標準化するため、実習日数を減らさざるを得ない	1
医療安全の面から教員も積極的でない	1
学生だけで、何かをすることを全て禁じられている	1

3. 臨地参加型実習の実施状況（表7）

領域別臨地実習で学生が医療チームの一員として参加できているかについて、5つの設問を設定し、それらに対し、「1. 実習場の全部署できている、2. 実習場の全ての部署ではないが概ねできている、3. 実習場の半数以下の部署ではあるが、できている、4. 全くできていない、5. 完成年度に達していないため該当しない」の5択で、専門領域ごとに尋ねた。

その結果、どの専門領域においても「1 学生がカルテや看護記録の閲覧情報を有している。」と「2 学生が測定したバイタルサインは正式な記録として採用されている。」については、1、2の回答肢が多く、比較的实施できていると回答した大学が多かったが、「3 学生が実施した看護を実際の看護記録に記載することが認められている。」「4 学生が立案した看護計画が実際の看護計画に採用されている。」「5 看護スタッフのカンファレンスで学生の意見を求められる。」については、3、4の回答肢を選択した大学が多く、あまり実施できていないという回答が多かった。

表7 領域別臨地実習で学生が医療チームの一員として参加できているか

成人	1	2	3	4	5	回答数
1学生がカルテや看護記録の閲覧権限を有している。	146 74.1%	33 16.8%	9 4.6%	4 2.0%	5 2.5%	197
2学生が測定したバイタルサインは正式な記録として採用されている。	44 22.6%	73 37.4%	44 22.6%	29 14.9%	5 2.6%	195
3学生が実施した看護を実際の看護記録に記載することが認められている（看護師確認後の記録や看護師との名前併記での記録を含む）。	4 2.0%	7 3.6%	8 4.1%	170 86.7%	7 3.6%	196
4学生が立案した看護計画が実際の看護計画に採用されている。	7 3.6%	16 8.2%	50 25.8%	115 59.3%	6 3.1%	194
5看護スタッフのカンファレンスで学生の意見を求められる。	5 2.6%	20 10.3%	81 41.8%	82 42.3%	6 3.1%	194
	206 21.1%	149 15.3%	192 19.7%	400 41.0%	29 3.0%	976

老年		1	2	3	4	5	回答数
1学生がカルテや看護記録の閲覧権限を有している。	134	68.7%	42 21.5%	5 2.6%	9 4.6%	5 2.6%	195
2学生が測定したバイタルサインは正式な記録として採用されている。	45	23.3%	69 35.8%	43 22.3%	30 15.5%	6 3.1%	193
3学生が実施した看護を実際の看護記録に記載することが認められている（看護師確認後の記録や看護師との名前併記での記録を含む）。	4	2.1%	9 4.7%	11 5.8%	162 84.8%	5 2.6%	191
4学生が立案した看護計画が実際の看護計画に採用されている。	8	4.2%	13 6.8%	69 36.3%	95 50.0%	5 2.6%	190
5看護スタッフのカンファレンスで学生の意見を求められる。	9	4.7%	13 6.8%	75 39.3%	89 46.6%	5 2.6%	191
	200	20.8%	146 15.2%	203 21.1%	385 40.1%	26 2.7%	960

母性		1	2	3	4	5	回答数
1学生がカルテや看護記録の閲覧権限を有している。	128	67.0%	44 23.0%	10 5.2%	3 1.6%	6 3.1%	191
2学生が測定したバイタルサインは正式な記録として採用されている。	44	23.4%	64 34.0%	38 20.2%	36 19.1%	6 3.2%	188
3学生が実施した看護を実際の看護記録に記載することが認められている（看護師確認後の記録や看護師との名前併記での記録を含む）。	3	1.6%	4 2.1%	7 3.7%	168 88.9%	7 3.7%	189
4学生が立案した看護計画が実際の看護計画に採用されている。	9	4.8%	14 7.4%	26 13.8%	134 70.9%	6 3.2%	189
5看護スタッフのカンファレンスで学生の意見を求められる。	3	1.6%	11 5.9%	28 14.9%	139 73.9%	7 3.7%	188
	187	19.8%	137 14.5%	109 11.5%	480 50.8%	32 3.4%	945

小児		1	2	3	4	5	回答数
1学生がカルテや看護記録の閲覧権限を有している。	128	67.0%	42 22.0%	10 5.2%	6 3.1%	5 2.6%	191
2学生が測定したバイタルサインは正式な記録として採用されている。	45	23.7%	67 35.3%	36 18.9%	36 18.9%	6 3.2%	190
3学生が実施した看護を実際の看護記録に記載することが認められている（看護師確認後の記録や看護師との名前併記での記録を含む）。	1	0.5%	5 2.6%	6 3.2%	171 90.0%	7 3.7%	190
4学生が立案した看護計画が実際の看護計画に採用されている。	5	2.6%	9 4.8%	40 21.2%	130 68.8%	5 2.6%	189
5看護スタッフのカンファレンスで学生の意見を求められる。	5	2.6%	6 3.2%	52 27.5%	121 64.0%	5 2.6%	189
	184	19.4%	129 13.6%	144 15.2%	464 48.9%	28 3.0%	949

精神		1	2	3	4	5	回答数
1学生がカルテや看護記録の閲覧権限を有している。	145	75.9%	32 16.8%	5 2.6%	4 2.1%	5 2.6%	191
2学生が測定したバイタルサインは正式な記録として採用されている。	89	46.8%	56 29.5%	18 9.5%	22 11.6%	5 2.6%	190
3学生が実施した看護を実際の看護記録に記載することが認められている（看護師確認後の記録や看護師との名前併記での記録を含む）。	6	3.2%	7 3.7%	12 6.3%	158 83.2%	7 3.7%	190
4学生が立案した看護計画が実際の看護計画に採用されている。	10	5.3%	18 9.5%	52 27.4%	103 54.2%	7 3.7%	190
5看護スタッフのカンファレンスで学生の意見を求められる。	12	6.3%	18 9.5%	62 32.6%	93 48.9%	5 2.6%	190
	262	27.5%	131 13.8%	149 15.7%	380 40.0%	29 3.0%	951

在宅	1	2	3	4	5	回答数					
1学生がカルテや看護記録の閲覧権限を有している。	116	60.7%	49	25.7%	18	9.4%	3	1.6%	5	2.6%	191
2学生が測定したバイタルサインは正式な記録として採用されている。	50	26.6%	58	30.9%	42	22.3%	33	17.6%	5	2.7%	188
3学生が実施した看護を実際の看護記録に記載することが認められている（看護師確認後の記録や看護師との名前併記での記録を含む）。	2	1.1%	4	2.1%	17	9.0%	159	84.1%	7	3.7%	189
4学生が立案した看護計画が実際の看護計画に採用されている。	7	3.7%	11	5.8%	48	25.4%	118	62.4%	5	2.6%	189
5看護スタッフのカンファレンスで学生の意見を求められる。	11	5.8%	12	6.3%	62	32.8%	98	51.9%	6	3.2%	189
	186	19.7%	134	14.2%	187	19.8%	411	43.4%	28	3.0%	946

4. 領域別臨地実習で経験している看護技術（表8）

領域別臨地実習でどのくらい看護技術を経験しているかについては、「1.75%以上の学生が経験している、2.50%以上75%未満の学生が経験している、3.25%以上50%未満の学生が経験している、4.25%未満の学生が経験している、5.経験の機会がない、6.完成年度に達していないため該当しない」の6つの回答肢で領域ごとに訪ねた。

看護技術の項目は、「看護師等養成所の運営に関するガイドラインの看護師教育の技術項目と卒業時の到達度」を参照した。設問1～33までは、学生の卒業時の到達レベルが「Ⅱ.指導の下で実施できる」と設定された看護技術（以後、看護技術Ⅱ）であり、設問34-1～53-2は、学生の卒業時の到達レベルが「Ⅲ.実施が困難な場合は見学する」と設定された看護技術（以後、看護技術Ⅲ）である。

その結果、成人看護学領域の看護技術Ⅱで、1の回答、つまり経験している学生が最も多かったのは、「安全な療養環境の整備（転倒・転落・外傷予防）を指導の下で実施している」で78.6%、次に多かったのは、「フィジカルアセスメントを指導の下で実施している」で77.1%だった。看護技術Ⅲでは、1の回答、つまり経験している学生が最も多かったのは「医療機器（輸液ポンプ、シリンジポンプ、心電図モニター、酸素ボンベ、人工呼吸器等）の操作・管理を見学している」で38.4%、次に多かったのは、「膀胱留置カテーテルの管理を見学している」で35.1%だった。

老年看護学領域の看護技術Ⅱで、経験している学生が最も多かったのは、「安全な療養環境の整備（転倒・転落・外傷予防）を指導の下で実施している」で87.5%、次に多かったのは、「フィジカルアセスメントを指導の下で実施している」で70.7%だった。看護技術Ⅲで、経験している学生が最も多かったのは、「医療機器（輸液ポンプ、シリンジポンプ、心電図モニター、酸素ボンベ、人工呼吸器等）の操作・管理を見学している」で9.2%、次に多かったのは「薬剤等の管理（毒薬、劇薬、麻薬、血液製剤、抗悪性腫瘍薬を含む）を見学している」で8.2%だった。

母性看護学領域の看護技術Ⅱで、経験している学生が最も多かったのは、「フィジカルアセスメントを指導の下で実施している」で63.9%、次に多かったのは、「安全な療養環境の整備（転倒・転落・外傷予防）を指導の下で実施している」で47.8%だった。看護技術Ⅲで、経験している学生が最も多かったのは「新生児の沐浴・清拭を見学している」で63.5%、次に多かったのは、「新生児の沐浴・清拭を指導の下で実施している」で37.2%だった。

小児看護学領域の看護技術Ⅱで、経験している学生が最も多かったのは、「安全な療養環境の整備（転倒・転落・外傷予防）を指導の下で実施している」で79.6%、次に多かったのは、「フィジカルアセスメントを指導の下で実施している」で65.7%だった。看護技術Ⅲで、最も経験している学生が

多かったのは、「医療機器(輸液ポンプ、シリンジポンプ、心電図モニター、酸素ボンベ、人工呼吸器等)の操作・管理を見学している」で29.3%、次に多かったのは、「静脈血採血を見学している」で14.8%だった。

精神看護学領域の看護技術Ⅱで、経験している学生が最も多かったのは、「精神的安寧を保つためのケアを指導の下で実施している」で75.3%、次に多かったのは、「安全な療養環境の整備(転倒・転落・外傷予防)を指導の下で実施している」で48.9%だった。看護技術Ⅲで、経験している学生が最も多かったのは、「薬剤等の管理(毒薬、劇薬、麻薬、血液製剤、抗悪性腫瘍薬を含む)を見学している」で24.7%、次に多かったのが、「薬剤等の管理(毒薬、劇薬、麻薬、血液製剤、抗悪性腫瘍薬を含む)を指導の下で実施している」で3.3%だった。

在宅看護学領域の看護技術Ⅱで、経験している学生が最も多かったのは、「フィジカルアセスメントを指導の下で実施している」で42.0%、次に多かったのは、「安全な療養環境の整備(転倒・転落・外傷予防)を指導の下で実施している」で38.1%だった。看護技術Ⅲで、経験している学生が最も多かったのは、「排便を見学している」で18.9%、次に多かったのは、「浣腸を見学している」で14.4%だった。

その他、経験している技術項目では、68校から回答が得られ、最も多い回答は「看護師等養成所の運営に関するガイドラインの看護師教育の技術項目と卒業時の到達度」のⅠ：単独で実施できる」に設定された項目で34件であった(表8-1)。

表 8 領域別臨地実習で経験している看護技術

成人 項目1~35-2	1	2	3	4	5	6	回答数
1臥床患者のリネン交換を指導の下で実施している。	68 35.6%	43 22.5%	33 17.3%	36 18.8%	6 3.1%	5 2.6%	191
2食事指導を指導の下で実施している。	17 8.9%	63 33.0%	55 28.8%	49 25.7%	2 1.0%	5 2.6%	191
3経管栄養法による流動食の注入を指導の下で実施している。	3 1.6%	4 2.1%	13 6.8%	78 40.6%	88 45.8%	6 3.1%	192
4排泄援助(床上、ポータブルトイレ、オムツ等)を指導の下で実施している。	38 19.8%	33 17.2%	62 32.3%	43 22.4%	11 5.7%	5 2.6%	192
5移乗介助を指導の下で実施している。	50 26.0%	55 28.6%	52 27.1%	26 13.5%	4 2.1%	5 2.6%	192
6自動・他動運動の援助を指導の下で実施している。	28 14.7%	39 20.4%	59 30.9%	54 28.3%	6 3.1%	5 2.6%	191
7ストレッチャー移送を指導の下で実施している。	18 9.5%	31 16.3%	37 19.5%	79 41.6%	20 10.5%	5 2.6%	190
8入浴・シャワー浴の介助を指導の下で実施している。	39 20.4%	50 26.2%	64 33.5%	30 15.7%	3 1.6%	5 2.6%	191
9陰部の保清を指導の下で実施している。	58 30.2%	54 28.1%	51 26.6%	21 10.9%	3 1.6%	5 2.6%	192
10清拭を指導の下で実施している。	113 58.9%	55 28.6%	11 5.7%	8 4.2%	0 0.0%	5 2.6%	192
11洗髪を指導の下で実施している。	28 14.7%	52 27.2%	68 35.6%	35 18.3%	3 1.6%	5 2.6%	191
12口腔ケアを指導の下で実施している。	27 14.1%	42 22.0%	52 27.2%	58 30.4%	7 3.7%	5 2.6%	191
13点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換を指導の下で実施している。	53 27.7%	59 30.9%	44 23.0%	28 14.7%	2 1.0%	5 2.6%	191
14酸素吸入療法の実施を指導の下で実施している。	29 15.2%	36 18.8%	39 20.4%	64 33.5%	18 9.4%	5 2.6%	191
15ネブライザーを用いた気道内加湿を指導の下で実施している。	6 3.1%	14 7.3%	15 7.8%	90 46.9%	62 32.3%	5 2.6%	192
16褥瘡予防ケアを指導の下で実施している。	34 17.8%	29 15.2%	44 23.0%	58 30.4%	21 11.0%	5 2.6%	191
17創傷処置(創洗浄、創保護、包帯法)を指導の下で実施している。	13 6.8%	16 8.4%	30 15.8%	70 36.8%	56 29.5%	5 2.6%	190
18経口薬(バツカル錠、内服薬、舌下錠)の投与を指導の下で実施している。	13 6.8%	9 4.7%	17 8.9%	45 23.6%	101 52.9%	6 3.1%	191
19経皮・外用薬の投与を指導の下で実施している。	3 1.6%	17 8.9%	32 16.8%	85 44.5%	49 25.7%	5 2.6%	191
20坐薬の投与を指導の下で実施している。	1 0.5%	4 2.1%	5 2.6%	35 18.3%	141 73.8%	5 2.6%	191
21点滴静脈内注射の管理を指導の下で実施している。	28 14.7%	30 15.8%	31 16.3%	45 23.7%	51 26.8%	5 2.6%	190
22フィジカルアセスメントを指導の下で実施している。	148 77.1%	23 12.0%	9 4.7%	5 2.6%	2 1.0%	5 2.6%	192
23検体(尿、血液等)の取扱いを指導の下で実施している。	9 4.7%	11 5.8%	16 8.4%	48 25.1%	102 53.4%	5 2.6%	191
24簡易血糖測定を指導の下で実施している。	11 5.8%	17 8.9%	49 25.8%	66 34.7%	41 21.6%	6 3.2%	190
25検査の介助を指導の下で実施している。	10 5.3%	17 8.9%	27 14.2%	67 35.3%	64 33.7%	5 2.6%	190
26使用した器具の感染防止の取扱いを指導の下で実施している。	64 33.5%	23 12.0%	23 12.0%	39 20.4%	37 19.4%	5 2.6%	191
27感染性廃棄物の取扱いを指導の下で実施している。	109 57.1%	25 13.1%	17 8.9%	20 10.5%	15 7.9%	5 2.6%	191
28無菌操作を指導の下で実施している。	11 5.7%	15 7.8%	24 12.5%	48 25.0%	89 46.4%	5 2.6%	192
29針刺し事故の防止・事故後の対応を指導の下で実施している。	33 17.4%	12 6.3%	13 6.8%	44 23.2%	83 43.7%	5 2.6%	190
30安全な療養環境の整備(転倒・転落・外傷予防)を指導の下で実施している。	151 78.6%	21 10.9%	8 4.2%	6 3.1%	1 0.5%	5 2.6%	192
31安楽な体位の調整を指導の下で実施している。	108 56.5%	49 25.7%	21 11.0%	8 4.2%	0 0.0%	5 2.6%	191
32安楽の促進・苦痛の緩和のためのケアを指導の下で実施している。	107 56.0%	45 23.6%	26 13.6%	8 4.2%	0 0.0%	5 2.6%	191
33精神的安寧を保つためのケアを指導の下で実施している。	107 56.0%	41 21.5%	19 9.9%	17 8.9%	2 1.0%	5 2.6%	191
34-1経鼻胃チューブの挿入を指導の下で実施している。	0 0.0%	0 0.0%	9 4.7%	22 11.5%	156 81.3%	5 2.6%	192
34-2経鼻胃チューブの挿入を見学している。	10 5.2%	12 6.3%	25 13.0%	87 45.3%	52 27.1%	6 3.1%	192
35-1膀胱留置カテーテルの管理を指導の下で実施している。	35 18.3%	38 19.9%	43 22.5%	27 14.1%	43 22.5%	5 2.6%	191
35-2膀胱留置カテーテルの管理を見学している。	67 35.1%	52 27.2%	30 15.7%	35 18.3%	2 1.0%	5 2.6%	191

成人 項目36-1～53-2

	1	2	3	4	5	6	回答数						
36-1導尿又は膀胱留置カテーテルの挿入を指導の下で実施している。	4	2.1%	1	0.5%	3	1.6%	19	9.9%	158	82.7%	6	3.1%	191
36-2導尿又は膀胱留置カテーテルの挿入を見学している。	26	13.5%	18	9.4%	24	12.5%	92	47.9%	27	14.1%	5	2.6%	192
37-1浣腸を指導の下で実施している。	1	0.5%	1	0.5%	5	2.6%	21	11.0%	157	82.2%	6	3.1%	191
37-2浣腸を見学している。	6	3.1%	9	4.7%	14	7.3%	109	57.1%	48	25.1%	5	2.6%	191
38-1排便を指導の下で実施している。	1	0.5%	0	0.0%	4	2.1%	24	12.5%	157	81.8%	6	3.1%	192
38-2排便を見学している。	1	0.5%	2	1.0%	13	6.8%	120	62.5%	51	26.6%	5	2.6%	192
39-1ストーマ管理を指導の下で実施している。	1	0.5%	4	2.1%	11	5.8%	80	41.9%	90	47.1%	5	2.6%	191
39-2ストーマ管理を見学している。	2	1.0%	8	4.2%	26	13.6%	142	74.3%	8	4.2%	5	2.6%	191
40-1新生児の沐浴・清拭を指導の下で実施している。	1	0.6%	0	0.0%	1	0.6%	6	3.4%	166	92.7%	5	2.8%	179
40-2新生児の沐浴・清拭を見学している。	1	0.6%	3	1.7%	0	0.0%	5	2.8%	164	92.1%	5	2.8%	178
41-1口腔内・鼻腔内吸引を指導の下で実施している。	1	0.5%	4	2.1%	5	2.6%	48	25.0%	128	66.7%	6	3.1%	192
41-2口腔内・鼻腔内吸引を見学している。	18	9.4%	26	13.5%	37	19.3%	91	47.4%	15	7.8%	5	2.6%	192
42-1気管内吸引を指導の下で実施している。	1	0.5%	3	1.6%	2	1.0%	24	12.5%	156	81.3%	6	3.1%	192
42-2気管内吸引を見学している。	15	7.9%	24	12.6%	27	14.1%	86	45.0%	34	17.8%	5	2.6%	191
43-1体位ドレナージを指導の下で実施している。	6	3.1%	14	7.3%	22	11.5%	72	37.5%	73	38.0%	5	2.6%	192
43-2体位ドレナージを見学している。	15	7.8%	26	13.5%	27	14.1%	88	45.8%	31	16.1%	5	2.6%	192
44-1ドレーン類の挿入部の処置を指導の下で実施している。	4	2.1%	9	4.7%	13	6.8%	37	19.5%	121	63.7%	6	3.2%	190
44-2ドレーン類の挿入部の処置を見学している。	40	21.1%	43	22.6%	50	26.3%	47	24.7%	5	2.6%	5	2.6%	190
45-1皮下注射を指導の下で実施している。	1	0.5%	1	0.5%	3	1.6%	17	8.9%	163	85.3%	6	3.1%	191
45-2皮下注射を見学している。	9	4.7%	11	5.8%	41	21.5%	86	45.0%	39	20.4%	5	2.6%	191
46-1筋肉内注射を指導の下で実施している。	1	0.5%	0	0.0%	1	0.5%	13	6.8%	170	89.0%	6	3.1%	191
46-2筋肉内注射を見学している。	6	3.1%	3	1.6%	17	8.9%	98	51.3%	62	32.5%	5	2.6%	191
47-1静脈路確保・点滴静脈内注射を指導の下で実施している。	4	2.1%	0	0.0%	2	1.0%	14	7.3%	165	86.4%	6	3.1%	191
47-2静脈路確保・点滴静脈内注射を見学している。	44	23.2%	27	14.2%	36	18.9%	72	37.9%	6	3.2%	5	2.6%	190
48-1薬剤等の管理（毒薬、劇薬、麻薬、血液製剤、抗悪性腫瘍薬を含む）を指導の下で実施している。	1	0.5%	4	2.1%	5	2.6%	20	10.5%	155	81.2%	6	3.1%	191
48-2薬剤等の管理（毒薬、劇薬、麻薬、血液製剤、抗悪性腫瘍薬を含む）を見学している。	35	18.4%	20	10.5%	42	22.1%	67	35.3%	21	11.1%	5	2.6%	190
49-1輸血の管理を指導の下で実施している。	1	0.5%	0	0.0%	2	1.0%	26	13.6%	156	81.7%	6	3.1%	191
49-2輸血の管理を見学している。	5	2.6%	12	6.3%	24	12.6%	122	63.9%	23	12.0%	5	2.6%	191
50-1止血法の実施を指導の下で実施している。	1	0.5%	2	1.0%	3	1.6%	23	12.0%	156	81.7%	6	3.1%	191
50-2止血法の実施を見学している。	6	3.1%	11	5.8%	16	8.4%	73	38.2%	79	41.4%	6	3.1%	191
51-1静脈血採血を指導の下で実施している。	2	1.0%	0	0.0%	3	1.6%	15	7.9%	165	86.4%	6	3.1%	191
51-2静脈血採血を見学している。	21	11.1%	16	8.4%	28	14.7%	92	48.4%	28	14.7%	5	2.6%	190
52-1人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防策の実施を指導の下で実施している。	2	1.0%	3	1.6%	4	2.1%	23	12.0%	153	80.1%	6	3.1%	191
52-2人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防策の実施を見学している。	9	4.7%	6	3.1%	30	15.7%	84	44.0%	57	29.8%	5	2.6%	191
53-1医療機器（輸液ポンプ、シリンジポンプ、心電図モニター、酸素ポンプ、人工呼吸器等）の操作・管理を指導の下で実施している。	4	2.1%	7	3.7%	7	3.7%	31	16.3%	136	71.6%	5	2.6%	190
53-2医療機器（輸液ポンプ、シリンジポンプ、心電図モニター、酸素ポンプ、人工呼吸器等）の操作・管理を見学している。	73	38.4%	34	17.9%	37	19.5%	34	17.9%	7	3.7%	5	2.6%	190

老年 項目1～35-2	1	2	3	4	5	6	回答数						
1臥床患者のリネン交換を指導の下で実施している。	62	33.2%	25	13.4%	40	21.4%	35	18.7%	20	10.7%	5	2.7%	187
2食事指導を指導の下で実施している。	18	9.7%	27	14.6%	43	23.2%	66	35.7%	27	14.6%	4	2.2%	185
3経管栄養法による流動食の注入を指導の下で実施している。	5	2.7%	7	3.8%	21	11.4%	69	37.3%	79	42.7%	4	2.2%	185
4排泄援助(床上、ポータブルトイレ、オムツ等)を指導の下で実施している。	80	43.2%	48	25.9%	33	17.8%	13	7.0%	7	3.8%	4	2.2%	185
5移乗介助を指導の下で実施している。	70	37.8%	51	27.6%	29	15.7%	23	12.4%	8	4.3%	4	2.2%	185
6自動・他動運動の援助を指導の下で実施している。	31	16.8%	39	21.1%	47	25.4%	54	29.2%	10	5.4%	4	2.2%	185
7ストレッチャー移送を指導の下で実施している。	13	7.1%	13	7.1%	34	18.5%	72	39.1%	48	26.1%	4	2.2%	184
8入浴・シャワー浴の介助を指導の下で実施している。	80	43.5%	43	23.4%	37	20.1%	16	8.7%	4	2.2%	4	2.2%	184
9陰部の保清を指導の下で実施している。	71	38.6%	50	27.2%	31	16.8%	22	12.0%	6	3.3%	4	2.2%	184
10清拭を指導の下で実施している。	62	33.7%	30	16.3%	34	18.5%	35	19.0%	19	10.3%	4	2.2%	184
11洗髪を指導の下で実施している。	31	16.8%	37	20.1%	34	18.5%	57	31.0%	21	11.4%	4	2.2%	184
12口腔ケアを指導の下で実施している。	73	39.9%	44	24.0%	28	15.3%	27	14.8%	7	3.8%	4	2.2%	183
13点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換を指導の下で実施している。	14	7.6%	20	10.9%	37	20.1%	65	35.3%	44	23.9%	4	2.2%	184
14酸素吸入療法の実施を指導の下で実施している。	4	2.2%	11	6.0%	20	10.9%	80	43.5%	65	35.3%	4	2.2%	184
15ネブライザーを用いた気道内加湿を指導の下で実施している。	2	1.1%	2	1.1%	10	5.4%	65	35.3%	101	54.9%	4	2.2%	184
16褥瘡予防ケアを指導の下で実施している。	43	23.4%	39	21.2%	31	16.8%	53	28.8%	14	7.6%	4	2.2%	184
17創傷処置(創洗浄、創保護、包帯法)を指導の下で実施している。	3	1.6%	8	4.3%	13	7.1%	81	44.0%	75	40.8%	4	2.2%	184
18経口薬(バカル錠、内服薬、舌下錠)の投与を指導の下で実施している。	15	8.2%	11	6.0%	17	9.2%	37	20.1%	100	54.3%	4	2.2%	184
19経皮・外用薬の投与を指導の下で実施している。	10	5.5%	15	8.2%	31	16.9%	64	35.0%	59	32.2%	4	2.2%	183
20坐薬の投与を指導の下で実施している。	1	0.5%	0	0.0%	9	4.9%	35	19.0%	135	73.4%	4	2.2%	184
21点滴静脈内注射の管理を指導の下で実施している。	7	3.8%	8	4.3%	12	6.5%	63	34.2%	90	48.9%	4	2.2%	184
22フィジカルアセスメントを指導の下で実施している。	130	70.7%	20	10.9%	12	6.5%	12	6.5%	6	3.3%	4	2.2%	184
23検体(尿、血液等)の取扱いを指導の下で実施している。	3	1.6%	3	1.6%	9	4.9%	34	18.5%	131	71.2%	4	2.2%	184
24簡易血糖測定を指導の下で実施している。	4	2.2%	5	2.7%	18	9.8%	76	41.3%	77	41.8%	4	2.2%	184
25検査の介助を指導の下で実施している。	3	1.6%	12	6.5%	12	6.5%	48	26.1%	105	57.1%	4	2.2%	184
26使用した器具の感染防止の取扱いを指導の下で実施している。	70	38.0%	19	10.3%	9	4.9%	36	19.6%	46	25.0%	4	2.2%	184
27感染性廃棄物の取扱いを指導の下で実施している。	101	54.9%	17	9.2%	8	4.3%	20	10.9%	34	18.5%	4	2.2%	184
28無菌操作を指導の下で実施している。	13	7.1%	3	1.6%	11	6.0%	29	15.8%	124	67.4%	4	2.2%	184
29針刺し事故の防止・事故後の対応を指導の下で実施している。	24	13.1%	4	2.2%	7	3.8%	30	16.4%	114	62.3%	4	2.2%	183
30安全な療養環境の整備(転倒・転落・外傷予防)を指導の下で実施している。	161	87.5%	12	6.5%	1	0.5%	2	1.1%	4	2.2%	4	2.2%	184
31安楽な体位の調整を指導の下で実施している。	118	64.1%	35	19.0%	17	9.2%	8	4.3%	2	1.1%	4	2.2%	184
32安楽の促進・苦痛の緩和のためのケアを指導の下で実施している。	99	53.8%	37	20.1%	23	12.5%	16	8.7%	5	2.7%	4	2.2%	184
33精神的安寧を保つためのケアを指導の下で実施している。	107	58.2%	35	19.0%	15	8.2%	19	10.3%	4	2.2%	4	2.2%	184
34-1経鼻胃チューブの挿入を指導の下で実施している。	1	0.5%	0	0.0%	1	0.5%	20	10.9%	158	85.9%	4	2.2%	184
34-2経鼻胃チューブの挿入を見学している。	2	1.1%	6	3.3%	10	5.4%	89	48.4%	73	39.7%	4	2.2%	184
35-1膀胱留置カテーテルの管理を指導の下で実施している。	6	3.3%	11	6.0%	35	19.0%	66	35.9%	62	33.7%	4	2.2%	184
35-2膀胱留置カテーテルの管理を見学している。	14	7.6%	19	10.3%	39	21.2%	82	44.6%	26	14.1%	4	2.2%	184

老年 項目36-1～53-2

	1	2	3	4	5	6	回答数						
36-1導尿又は膀胱留置カテーテルの挿入を指導の下で実施している。	0	0.0%	0	0.0%	3	1.6%	16	8.7%	161	87.5%	4	2.2%	184
36-2導尿又は膀胱留置カテーテルの挿入を見学している。	3	1.6%	6	3.3%	15	8.2%	101	54.9%	55	29.9%	4	2.2%	184
37-1浣腸を指導の下で実施している。	0	0.0%	0	0.0%	2	1.1%	23	12.5%	155	84.2%	4	2.2%	184
37-2浣腸を見学している。	3	1.6%	7	3.8%	28	15.2%	112	60.9%	30	16.3%	4	2.2%	184
38-1排便を指導の下で実施している。	0	0.0%	1	0.5%	5	2.7%	21	11.4%	153	83.2%	4	2.2%	184
38-2排便を見学している。	3	1.6%	7	3.8%	31	16.8%	117	63.6%	22	12.0%	4	2.2%	184
39-1ストーマ管理を指導の下で実施している。	1	0.5%	2	1.1%	3	1.6%	35	19.0%	139	75.5%	4	2.2%	184
39-2ストーマ管理を見学している。	4	2.2%	5	2.7%	9	4.9%	106	57.6%	56	30.4%	4	2.2%	184
40-1新生児の沐浴・清拭を指導の下で実施している。	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.1%	168	95.5%	5	2.8%	176
40-2新生児の沐浴・清拭を見学している。	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	2.3%	166	94.9%	5	2.9%	175
41-1口腔内・鼻腔内吸引を指導の下で実施している。	2	1.1%	4	2.2%	5	2.7%	37	20.1%	132	71.7%	4	2.2%	184
41-2口腔内・鼻腔内吸引を見学している。	10	5.4%	18	9.8%	37	20.1%	89	48.4%	26	14.1%	4	2.2%	184
42-1気管内吸引を指導の下で実施している。	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	18	9.8%	161	87.5%	4	2.2%	184
42-2気管内吸引を見学している。	6	3.3%	3	1.6%	17	9.2%	83	45.1%	71	38.6%	4	2.2%	184
43-1体位ドレナージを指導の下で実施している。	1	0.5%	5	2.7%	12	6.5%	53	28.8%	109	59.2%	4	2.2%	184
43-2体位ドレナージを見学している。	3	1.6%	8	4.3%	19	10.3%	82	44.6%	68	37.0%	4	2.2%	184
44-1ドレーン類の挿入部の処置を指導の下で実施している。	1	0.5%	0	0.0%	1	0.5%	23	12.5%	155	84.2%	4	2.2%	184
44-2ドレーン類の挿入部の処置を見学している。	7	3.8%	4	2.2%	12	6.5%	76	41.3%	81	44.0%	4	2.2%	184
45-1皮下注射を指導の下で実施している。	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	11	6.0%	167	90.8%	5	2.7%	184
45-2皮下注射を見学している。	6	3.3%	4	2.2%	12	6.5%	86	46.7%	72	39.1%	4	2.2%	184
46-1筋肉内注射を指導の下で実施している。	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	9	4.9%	170	92.4%	5	2.7%	184
46-2筋肉内注射を見学している。	4	2.2%	0	0.0%	3	1.6%	68	37.0%	105	57.1%	4	2.2%	184
47-1静脈路確保・点滴静脈内注射を指導の下で実施している。	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	10	5.4%	169	91.8%	4	2.2%	184
47-2静脈路確保・点滴静脈内注射を見学している。	11	6.0%	6	3.3%	14	7.6%	99	53.8%	50	27.2%	4	2.2%	184
48-1薬剤等の管理（毒薬、劇薬、麻薬、血液製剤、抗悪性腫瘍薬を含む）を指導の下で実施している。	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	9	4.9%	169	92.3%	4	2.2%	183
48-2薬剤等の管理（毒薬、劇薬、麻薬、血液製剤、抗悪性腫瘍薬を含む）を見学している。	15	8.2%	7	3.8%	9	4.9%	56	30.4%	93	50.5%	4	2.2%	184
49-1輸血の管理を指導の下で実施している。	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	4.3%	171	92.9%	5	2.7%	184
49-2輸血の管理を見学している。	1	0.5%	2	1.1%	1	0.5%	61	33.2%	115	62.5%	4	2.2%	184
50-1止血法の実施を指導の下で実施している。	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	8	4.3%	171	92.9%	4	2.2%	184
50-2止血法の実施を見学している。	2	1.1%	2	1.1%	1	0.5%	43	23.4%	132	71.7%	4	2.2%	184
51-1静脈血採血を指導の下で実施している。	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	4.3%	172	93.5%	4	2.2%	184
51-2静脈血採血を見学している。	7	3.8%	6	3.3%	8	4.3%	88	47.8%	70	38.0%	5	2.7%	184
52-1人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防策の実施を指導の下で実施している。	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	8	4.3%	170	92.4%	5	2.7%	184
52-2人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防策の実施を見学している。	2	1.1%	2	1.1%	5	2.7%	28	15.2%	143	77.7%	4	2.2%	184
53-1医療機器（輸液ポンプ、シリンジポンプ、心電図モニター、酸素ポンプ、人工呼吸器等）の操作・管理を指導の下で実施している。	2	1.1%	2	1.1%	1	0.5%	26	14.1%	149	81.0%	4	2.2%	184
53-2医療機器（輸液ポンプ、シリンジポンプ、心電図モニター、酸素ポンプ、人工呼吸器等）の操作・管理を見学している。	17	9.2%	9	4.9%	24	13.0%	84	45.7%	46	25.0%	4	2.2%	184

母性 項目1~35-2	1	2	3	4	5	6	回答数						
1臥床患者のリネン交換を指導の下で実施している。	20	10.9%	13	7.1%	10	5.5%	30	16.4%	105	57.4%	5	2.7%	183
2食事指導を指導の下で実施している。	3	1.7%	9	5.0%	22	12.2%	72	39.8%	71	39.2%	4	2.2%	181
3経栄養法による流動食の注入を指導の下で実施している。	1	0.6%	0	0.0%	1	0.6%	9	5.0%	165	91.7%	4	2.2%	180
4排泄援助(床上、ポータブルトイレ、オムツ等)を指導の下で実施している。	29	16.0%	10	5.5%	10	5.5%	16	8.8%	112	61.9%	4	2.2%	181
5移乗介助を指導の下で実施している。	7	3.9%	9	5.0%	11	6.1%	48	26.7%	101	56.1%	4	2.2%	180
6自動・他動運動の援助を指導の下で実施している。	3	1.7%	2	1.1%	7	3.9%	24	13.3%	141	77.9%	4	2.2%	181
7ストレッチャー移送を指導の下で実施している。	2	1.1%	3	1.7%	9	5.0%	33	18.3%	129	71.7%	4	2.2%	180
8入浴・シャワー浴の介助を指導の下で実施している。	1	0.6%	6	3.3%	9	5.0%	19	10.6%	141	78.3%	4	2.2%	180
9陰部の保清を指導の下で実施している。	7	3.9%	5	2.8%	12	6.7%	45	25.0%	107	59.4%	4	2.2%	180
10清拭を指導の下で実施している。	6	3.3%	10	5.6%	26	14.4%	88	48.9%	46	25.6%	4	2.2%	180
11洗髪を指導の下で実施している。	3	1.7%	3	1.7%	10	5.6%	54	30.0%	106	58.9%	4	2.2%	180
12口腔ケアを指導の下で実施している。	2	1.1%	1	0.6%	2	1.1%	13	7.3%	157	87.7%	4	2.2%	179
13点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換を指導の下で実施している。	2	1.1%	4	2.2%	17	9.4%	69	38.3%	84	46.7%	4	2.2%	180
14酸素吸入療法の実施を指導の下で実施している。	4	2.2%	3	1.7%	4	2.2%	25	14.0%	138	77.1%	5	2.8%	179
15ネブライザーを用いた気道内加湿を指導の下で実施している。	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	10	5.6%	164	91.6%	4	2.2%	179
16褥瘡予防ケアを指導の下で実施している。	1	0.6%	1	0.6%	1	0.6%	16	8.9%	157	87.2%	4	2.2%	180
17創傷処置(創洗浄、創保護、包帯法)を指導の下で実施している。	0	0.0%	4	2.2%	3	1.7%	19	10.6%	150	83.3%	4	2.2%	180
18経口薬(バツカル錠、内服薬、舌下錠)の投与を指導の下で実施している。	1	0.6%	3	1.7%	6	3.3%	20	11.1%	146	81.1%	4	2.2%	180
19経皮・外用薬の投与を指導の下で実施している。	0	0.0%	3	1.7%	2	1.1%	22	12.3%	148	82.7%	4	2.2%	179
20坐薬の投与を指導の下で実施している。	0	0.0%	1	0.6%	0	0.0%	14	7.8%	160	89.4%	4	2.2%	179
21点滴静脈内注射の管理を指導の下で実施している。	2	1.1%	8	4.4%	10	5.6%	32	17.8%	124	68.9%	4	2.2%	180
22フィジカルアセスメントを指導の下で実施している。	115	63.9%	15	8.3%	5	2.8%	13	7.2%	27	15.0%	5	2.8%	180
23検体(尿、血液等)の取扱いを指導の下で実施している。	9	5.0%	7	3.9%	8	4.5%	31	17.3%	120	67.0%	4	2.2%	179
24簡易血糖測定を指導の下で実施している。	3	1.7%	2	1.1%	2	1.1%	28	15.6%	141	78.3%	4	2.2%	180
25検査の介助を指導の下で実施している。	12	6.7%	10	5.6%	5	2.8%	38	21.1%	111	61.7%	4	2.2%	180
26使用した器具の感染防止の取扱いを指導の下で実施している。	46	25.6%	10	5.6%	12	6.7%	26	14.4%	81	45.0%	5	2.8%	180
27感染性廃棄物の取扱いを指導の下で実施している。	78	43.3%	14	7.8%	11	6.1%	29	16.1%	43	23.9%	5	2.8%	180
28無菌操作を指導の下で実施している。	7	3.9%	3	1.7%	11	6.1%	19	10.6%	135	75.0%	5	2.8%	180
29針刺し事故の防止・事故後の対応を指導の下で実施している。	14	7.8%	2	1.1%	5	2.8%	14	7.8%	141	78.3%	4	2.2%	180
30安全な療養環境の整備(転倒・転落・外傷予防)を指導の下で実施している。	86	47.8%	17	9.4%	16	8.9%	21	11.7%	35	19.4%	5	2.8%	180
31安楽な体位の調整を指導の下で実施している。	54	30.0%	20	11.1%	32	17.8%	42	23.3%	27	15.0%	5	2.8%	180
32安楽の促進・苦痛の緩和のためのケアを指導の下で実施している。	55	30.7%	29	16.2%	30	16.8%	38	21.2%	22	12.3%	5	2.8%	179
33精神的安寧を保つためのケアを指導の下で実施している。	71	39.4%	26	14.4%	20	11.1%	25	13.9%	34	18.9%	4	2.2%	180
34-1経鼻胃チューブの挿入を指導の下で実施している。	0	0.0%	1	0.6%	1	0.6%	6	3.3%	168	93.3%	4	2.2%	180
34-2経鼻胃チューブの挿入を見学している。	1	0.6%	0	0.0%	4	2.2%	9	5.0%	161	89.9%	4	2.2%	179
35-1膀胱留置カテーテルの管理を指導の下で実施している。	1	0.6%	2	1.1%	10	5.6%	30	16.8%	132	73.7%	4	2.2%	179
35-2膀胱留置カテーテルの管理を見学している。	4	2.2%	6	3.3%	25	13.9%	72	40.0%	69	38.3%	4	2.2%	180

母性 項目36-1～53-2	1	2	3	4	5	6	回答数						
36-1導尿又は膀胱留置カテーテルの挿入を指導の下で実施している。	0	0.0%	1	0.6%	6	3.3%	10	5.6%	159	88.3%	4	2.2%	180
36-2導尿又は膀胱留置カテーテルの挿入を見学している。	2	1.1%	4	2.2%	12	6.7%	56	31.1%	102	56.7%	4	2.2%	180
37-1洗腸を指導の下で実施している。	0	0.0%	0	0.0%	2	1.1%	5	2.8%	169	93.9%	4	2.2%	180
37-2洗腸を見学している。	1	0.6%	1	0.6%	4	2.2%	19	10.6%	151	83.9%	4	2.2%	180
38-1排便を指導の下で実施している。	0	0.0%	0	0.0%	1	0.6%	5	2.8%	170	94.4%	4	2.2%	180
38-2排便を見学している。	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	11	6.1%	164	91.6%	4	2.2%	179
39-1ストーマ管理を指導の下で実施している。	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	6	3.3%	169	93.9%	4	2.2%	180
39-2ストーマ管理を見学している。	3	1.7%	0	0.0%	0	0.0%	7	3.9%	165	92.2%	4	2.2%	179
40-1新生児の沐浴・清拭を指導の下で実施している。	67	37.2%	39	21.7%	20	11.1%	25	13.9%	24	13.3%	5	2.8%	180
40-2新生児の沐浴・清拭を見学している。	115	63.5%	32	17.7%	13	7.2%	6	3.3%	10	5.5%	5	2.8%	181
41-1口腔内・鼻腔内吸引を指導の下で実施している。	2	1.1%	1	0.6%	2	1.1%	11	6.1%	160	88.9%	4	2.2%	180
41-2口腔内・鼻腔内吸引を見学している。	10	5.6%	2	1.1%	20	11.2%	43	24.0%	100	55.9%	4	2.2%	179
42-1気管内吸引を指導の下で実施している。	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	5	2.8%	169	94.4%	4	2.2%	179
42-2気管内吸引を見学している。	1	0.6%	2	1.1%	3	1.7%	17	9.5%	152	84.9%	4	2.2%	179
43-1体位ドレナージを指導の下で実施している。	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	4.5%	167	93.3%	4	2.2%	179
43-2体位ドレナージを見学している。	1	0.6%	1	0.6%	2	1.1%	18	10.1%	153	85.5%	4	2.2%	179
44-1ドレーン類の挿入部の処置を指導の下で実施している。	0	0.0%	1	0.6%	0	0.0%	7	3.9%	167	93.3%	4	2.2%	179
44-2ドレーン類の挿入部の処置を見学している。	0	0.0%	2	1.1%	2	1.1%	24	13.4%	147	82.1%	4	2.2%	179
45-1皮下注射を指導の下で実施している。	0	0.0%	0	0.0%	1	0.6%	8	4.5%	166	92.7%	4	2.2%	179
45-2皮下注射を見学している。	1	0.6%	2	1.1%	2	1.1%	33	18.4%	137	76.5%	4	2.2%	179
46-1筋肉内注射を指導の下で実施している。	0	0.0%	0	0.0%	1	0.6%	7	3.9%	167	93.3%	4	2.2%	179
46-2筋肉内注射を見学している。	1	0.6%	3	1.7%	2	1.1%	33	18.4%	136	76.0%	4	2.2%	179
47-1静脈路確保・点滴静脈内注射を指導の下で実施している。	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	12	6.7%	162	90.5%	4	2.2%	179
47-2静脈路確保・点滴静脈内注射を見学している。	3	1.7%	9	5.0%	18	10.1%	64	35.8%	81	45.3%	4	2.2%	179
48-1薬剤等の管理（毒薬、劇薬、麻薬、血液製剤、抗悪性腫瘍薬を含む）を指導の下で実施している。	0	0.0%	1	0.6%	0	0.0%	6	3.3%	169	93.9%	4	2.2%	180
48-2薬剤等の管理（毒薬、劇薬、麻薬、血液製剤、抗悪性腫瘍薬を含む）を見学している。	8	4.4%	5	2.8%	7	3.9%	26	14.4%	130	72.2%	4	2.2%	180
49-1輸血の管理を指導の下で実施している。	0	0.0%	1	0.6%	0	0.0%	9	5.0%	166	92.2%	4	2.2%	180
49-2輸血の管理を見学している。	1	0.6%	3	1.7%	4	2.2%	35	19.4%	133	73.9%	4	2.2%	180
50-1止血法の実施を指導の下で実施している。	0	0.0%	1	0.6%	0	0.0%	10	5.6%	165	91.7%	4	2.2%	180
50-2止血法の実施を見学している。	3	1.7%	4	2.2%	6	3.3%	24	13.3%	139	77.2%	4	2.2%	180
51-1静脈血採血を指導の下で実施している。	0	0.0%	1	0.6%	0	0.0%	9	5.0%	166	92.2%	4	2.2%	180
51-2静脈血採血を見学している。	2	1.1%	3	1.7%	16	8.9%	52	28.9%	103	57.2%	4	2.2%	180
52-1人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防策の実施を指導の下で実施している。	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	4.4%	168	93.3%	4	2.2%	180
52-2人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防策の実施を見学している。	0	0.0%	0	0.0%	2	1.1%	13	7.2%	161	89.4%	4	2.2%	180
53-1医療機器（輸液ポンプ、シリンジポンプ、心電図モニター、酸素ポンプ、人工呼吸器等）の操作・管理を指導の下で実施している。	1	0.6%	2	1.1%	3	1.7%	19	10.6%	151	83.9%	4	2.2%	180
53-2医療機器（輸液ポンプ、シリンジポンプ、心電図モニター、酸素ポンプ、人工呼吸器等）の操作・管理を見学している。	14	7.8%	12	6.7%	33	18.3%	66	36.7%	51	28.3%	4	2.2%	180

小児 項目1~35-2	1	2	3	4	5	6	回答数						
1臥床患者のリネン交換を指導の下で実施している。	39	21.2%	29	15.8%	34	18.5%	50	27.2%	27	14.7%	5	2.7%	184
2食事指導を指導の下で実施している。	9	4.9%	9	4.9%	25	13.7%	84	46.2%	51	28.0%	4	2.2%	182
3経管栄養法による流動食の注入を指導の下で実施している。	2	1.1%	7	3.8%	21	11.5%	41	22.5%	107	58.8%	4	2.2%	182
4排泄援助(床上、ポータブルトイレ、オムツ等)を指導の下で実施している。	34	18.7%	31	17.0%	51	28.0%	42	23.1%	20	11.0%	4	2.2%	182
5移乗介助を指導の下で実施している。	16	8.8%	25	13.7%	50	27.5%	55	30.2%	32	17.6%	4	2.2%	182
6自動・他動運動の援助を指導の下で実施している。	11	6.1%	8	4.4%	22	12.2%	63	34.8%	73	40.3%	4	2.2%	181
7ストレッチャー移送を指導の下で実施している。	6	3.3%	9	5.0%	29	16.0%	74	40.9%	59	32.6%	4	2.2%	181
8入浴・シャワー浴の介助を指導の下で実施している。	27	14.9%	33	18.2%	44	24.3%	53	29.3%	20	11.0%	4	2.2%	181
9陰部の保清を指導の下で実施している。	22	12.2%	37	20.4%	46	25.4%	53	29.3%	19	10.5%	4	2.2%	181
10清拭を指導の下で実施している。	46	25.4%	42	23.2%	47	26.0%	34	18.8%	8	4.4%	4	2.2%	181
11洗髪を指導の下で実施している。	16	8.8%	19	10.5%	35	19.3%	79	43.6%	28	15.5%	4	2.2%	181
12口腔ケアを指導の下で実施している。	15	8.3%	24	13.3%	36	19.9%	63	34.8%	39	21.5%	4	2.2%	181
13点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換を指導の下で実施している。	13	7.2%	29	16.0%	44	24.3%	59	32.6%	32	17.7%	4	2.2%	181
14酸素吸入療法の実施を指導の下で実施している。	3	1.7%	13	7.2%	28	15.5%	82	45.3%	51	28.2%	4	2.2%	181
15ネブライザーを用いた気道内加湿を指導の下で実施している。	4	2.2%	13	7.2%	36	19.9%	86	47.5%	38	21.0%	4	2.2%	181
16褥瘡予防ケアを指導の下で実施している。	2	1.1%	2	1.1%	14	7.7%	51	28.2%	108	59.7%	4	2.2%	181
17創傷処置(創洗浄、創保護、包帯法)を指導の下で実施している。	0	0.0%	0	0.0%	4	2.2%	53	29.3%	120	66.3%	4	2.2%	181
18経口薬(バカル錠、内服薬、舌下錠)の投与を指導の下で実施している。	1	0.6%	3	1.7%	9	5.0%	47	26.0%	117	64.6%	4	2.2%	181
19経皮・外用薬の投与を指導の下で実施している。	4	2.2%	4	2.2%	12	6.6%	64	35.4%	93	51.4%	4	2.2%	181
20坐薬の投与を指導の下で実施している。	0	0.0%	0	0.0%	3	1.7%	42	23.2%	132	72.9%	4	2.2%	181
21点滴静脈内注射の管理を指導の下で実施している。	13	7.2%	27	14.9%	29	16.0%	39	21.5%	68	37.6%	5	2.8%	181
22フィジカルアセスメントを指導の下で実施している。	119	65.7%	22	12.2%	8	4.4%	10	5.5%	18	9.9%	4	2.2%	181
23検体(尿、血液等)の取扱いを指導の下で実施している。	2	1.1%	5	2.8%	19	10.5%	47	26.0%	104	57.5%	4	2.2%	181
24簡易血糖測定を指導の下で実施している。	0	0.0%	3	1.7%	3	1.7%	39	21.5%	132	72.9%	4	2.2%	181
25検査の介助を指導の下で実施している。	11	6.1%	15	8.3%	28	15.5%	67	37.0%	56	30.9%	4	2.2%	181
26使用した器具の感染防止の取扱いを指導の下で実施している。	56	30.9%	16	8.8%	14	7.7%	39	21.5%	52	28.7%	4	2.2%	181
27感染性廃棄物の取扱いを指導の下で実施している。	82	45.3%	15	8.3%	19	10.5%	28	15.5%	33	18.2%	4	2.2%	181
28無菌操作を指導の下で実施している。	8	4.4%	2	1.1%	3	1.7%	34	18.8%	130	71.8%	4	2.2%	181
29針刺し事故の防止・事故後の対応を指導の下で実施している。	18	9.9%	2	1.1%	4	2.2%	27	14.9%	126	69.6%	4	2.2%	181
30安全な療養環境の整備(転倒・転落・外傷予防)を指導の下で実施している。	144	79.6%	15	8.3%	9	5.0%	3	1.7%	6	3.3%	4	2.2%	181
31安楽な体位の調整を指導の下で実施している。	72	40.0%	37	20.6%	30	16.7%	27	15.0%	10	5.6%	4	2.2%	180
32安楽の促進・苦痛の緩和のためのケアを指導の下で実施している。	86	47.5%	36	19.9%	22	12.2%	22	12.2%	11	6.1%	4	2.2%	181
33精神的安寧を保つためのケアを指導の下で実施している。	106	58.6%	27	14.9%	17	9.4%	13	7.2%	14	7.7%	4	2.2%	181
34-1経鼻胃チューブの挿入を指導の下で実施している。	2	1.1%	2	1.1%	2	1.1%	26	14.4%	145	80.1%	4	2.2%	181
34-2経鼻胃チューブの挿入を見学している。	3	1.7%	3	1.7%	18	9.9%	86	47.5%	67	37.0%	4	2.2%	181
35-1膀胱留置カテーテルの管理を指導の下で実施している。	3	1.7%	0	0.0%	2	1.1%	45	24.9%	127	70.2%	4	2.2%	181
35-2膀胱留置カテーテルの管理を見学している。	3	1.7%	2	1.1%	4	2.2%	84	46.4%	84	46.4%	4	2.2%	181

小児 項目36-1~53-2	1	2	3	4	5	6	回答数						
36-1導尿又は膀胱留置カテーテルの挿入を指導の下で実施している。	2	1.1%	0	0.0%	1	0.6%	17	9.4%	157	86.7%	4	2.2%	181
36-2導尿又は膀胱留置カテーテルの挿入を見学している。	2	1.1%	1	0.6%	2	1.1%	74	40.9%	98	54.1%	4	2.2%	181
37-1浣腸を指導の下で実施している。	0	0.0%	0	0.0%	4	2.2%	25	13.8%	148	81.8%	4	2.2%	181
37-2浣腸を見学している。	4	2.2%	6	3.3%	20	11.0%	103	56.9%	44	24.3%	4	2.2%	181
38-1排便を指導の下で実施している。	0	0.0%	0	0.0%	1	0.6%	19	10.5%	157	86.7%	4	2.2%	181
38-2排便を見学している。	2	1.1%	0	0.0%	2	1.1%	46	25.4%	127	70.2%	4	2.2%	181
39-1ストーマ管理を指導の下で実施している。	0	0.0%	1	0.6%	1	0.6%	18	9.9%	157	86.7%	4	2.2%	181
39-2ストーマ管理を見学している。	2	1.1%	1	0.6%	5	2.8%	63	34.8%	106	58.6%	4	2.2%	181
40-1新生児の沐浴・清拭を指導の下で実施している。	6	3.3%	7	3.9%	13	7.2%	63	34.8%	88	48.6%	4	2.2%	181
40-2新生児の沐浴・清拭を見学している。	13	7.2%	6	3.3%	19	10.5%	65	35.9%	74	40.9%	4	2.2%	181
41-1口腔内・鼻腔内吸引を指導の下で実施している。	2	1.1%	2	1.1%	9	5.0%	26	14.4%	138	76.2%	4	2.2%	181
41-2口腔内・鼻腔内吸引を見学している。	13	7.2%	25	13.8%	44	24.3%	71	39.2%	24	13.3%	4	2.2%	181
42-1気管内吸引を指導の下で実施している。	0	0.0%	1	0.6%	2	1.1%	21	11.6%	153	84.5%	4	2.2%	181
42-2気管内吸引を見学している。	5	2.8%	4	2.2%	28	15.5%	88	48.6%	52	28.7%	4	2.2%	181
43-1体位ドレナージを指導の下で実施している。	1	0.6%	3	1.7%	14	7.7%	47	26.0%	112	61.9%	4	2.2%	181
43-2体位ドレナージを見学している。	4	2.2%	10	5.5%	27	14.9%	79	43.6%	57	31.5%	4	2.2%	181
44-1ドレーン類の挿入部の処置を指導の下で実施している。	1	0.6%	1	0.6%	2	1.1%	24	13.3%	148	81.8%	5	2.8%	181
44-2ドレーン類の挿入部の処置を見学している。	3	1.7%	5	2.8%	15	8.3%	74	40.9%	80	44.2%	4	2.2%	181
45-1皮下注射を指導の下で実施している。	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	15	8.3%	162	89.5%	4	2.2%	181
45-2皮下注射を見学している。	11	6.0%	1	0.5%	11	6.0%	85	46.7%	70	38.5%	4	2.2%	182
46-1筋肉内注射を指導の下で実施している。	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	15	8.2%	163	89.6%	4	2.2%	182
46-2筋肉内注射を見学している。	5	2.7%	0	0.0%	7	3.8%	78	42.9%	88	48.4%	4	2.2%	182
47-1静脈路確保・点滴静脈内注射を指導の下で実施している。	0	0.0%	3	1.6%	1	0.5%	15	8.2%	158	86.8%	5	2.7%	182
47-2静脈路確保・点滴静脈内注射を見学している。	25	13.8%	30	16.6%	44	24.3%	67	37.0%	11	6.1%	4	2.2%	181
48-1薬剤等の管理（毒薬、劇薬、麻薬、血液製剤、抗悪性腫瘍薬を含む）を指導の下で実施している。	1	0.5%	2	1.1%	1	0.5%	12	6.6%	162	89.0%	4	2.2%	182
48-2薬剤等の管理（毒薬、劇薬、麻薬、血液製剤、抗悪性腫瘍薬を含む）を見学している。	18	9.9%	9	4.9%	24	13.2%	69	37.9%	58	31.9%	4	2.2%	182
49-1輸血の管理を指導の下で実施している。	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	14	7.7%	163	89.6%	4	2.2%	182
49-2輸血の管理を見学している。	3	1.6%	4	2.2%	10	5.5%	69	37.9%	92	50.5%	4	2.2%	182
50-1止血法の実施を指導の下で実施している。	1	0.6%	1	0.6%	6	3.3%	14	7.7%	155	85.6%	4	2.2%	181
50-2止血法の実施を見学している。	7	3.8%	6	3.3%	12	6.6%	56	30.8%	97	53.3%	4	2.2%	182
51-1静脈血採血を指導の下で実施している。	1	0.6%	2	1.1%	1	0.6%	11	6.1%	162	89.5%	4	2.2%	181
51-2静脈血採血を見学している。	27	14.8%	30	16.5%	43	23.6%	63	34.6%	15	8.2%	4	2.2%	182
52-1人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防策の実施を指導の下で実施している。	0	0.0%	1	0.5%	2	1.1%	13	7.1%	162	89.0%	4	2.2%	182
52-2人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防策の実施を見学している。	2	1.1%	6	3.3%	13	7.1%	40	22.0%	117	64.3%	4	2.2%	182
53-1医療機器（輸液ポンプ、シリンジポンプ、心電図モニター、酸素ポンプ、人工呼吸器等）の操作・管理を指導の下で実施している。	3	1.6%	5	2.7%	8	4.4%	15	8.2%	147	80.8%	4	2.2%	182
53-2医療機器（輸液ポンプ、シリンジポンプ、心電図モニター、酸素ポンプ、人工呼吸器等）の操作・管理を見学している。	53	29.3%	36	19.9%	43	23.8%	34	18.8%	11	6.1%	4	2.2%	181

精神 項目1~35-2	1	2	3	4	5	6	回答数						
1臥床患者のリネン交換を指導の下で実施している。	39	21.1%	29	15.7%	15	8.1%	39	21.1%	58	31.4%	5	2.7%	185
2食事指導を指導の下で実施している。	9	4.9%	12	6.6%	26	14.2%	66	36.1%	66	36.1%	4	2.2%	183
3経管栄養法による流動食の注入を指導の下で実施している。	1	0.5%	1	0.5%	4	2.2%	16	8.7%	157	85.8%	4	2.2%	183
4排泄援助(床上、ポータブルトイレ、オムツ等)を指導の下で実施している。	5	2.7%	9	4.9%	20	10.9%	77	42.1%	68	37.2%	4	2.2%	183
5移乗介助を指導の下で実施している。	8	4.4%	11	6.0%	25	13.7%	88	48.1%	47	25.7%	4	2.2%	183
6自動・他動運動の援助を指導の下で実施している。	9	4.9%	6	3.3%	17	9.3%	66	36.1%	81	44.3%	4	2.2%	183
7ストレッチャー移送を指導の下で実施している。	1	0.5%	3	1.6%	9	4.9%	34	18.7%	131	72.0%	4	2.2%	182
8入浴・シャワー浴の介助を指導の下で実施している。	11	6.0%	24	13.2%	35	19.2%	69	37.9%	39	21.4%	4	2.2%	182
9陰部の保清を指導の下で実施している。	2	1.1%	4	2.2%	12	6.6%	64	35.2%	96	52.7%	4	2.2%	182
10清拭を指導の下で実施している。	5	2.7%	9	4.9%	18	9.9%	71	39.0%	75	41.2%	4	2.2%	182
11洗髪を指導の下で実施している。	4	2.2%	8	4.4%	10	5.5%	73	40.1%	83	45.6%	4	2.2%	182
12口腔ケアを指導の下で実施している。	10	5.5%	17	9.3%	29	15.9%	71	39.0%	51	28.0%	4	2.2%	182
13点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換を指導の下で実施している。	0	0.0%	4	2.2%	4	2.2%	27	14.8%	143	78.6%	4	2.2%	182
14酸素吸入療法の実施を指導の下で実施している。	0	0.0%	3	1.6%	1	0.5%	19	10.4%	155	85.2%	4	2.2%	182
15ネブライザーを用いた気道内加湿を指導の下で実施している。	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	11	6.0%	166	91.2%	4	2.2%	182
16褥瘡予防ケアを指導の下で実施している。	1	0.5%	1	0.5%	6	3.3%	54	29.7%	116	63.7%	4	2.2%	182
17創傷処置(創洗浄、創保護、包帯法)を指導の下で実施している。	0	0.0%	2	1.1%	0	0.0%	30	16.5%	146	80.2%	4	2.2%	182
18経口薬(バツカル錠、内服薬、舌下錠)の投与を指導の下で実施している。	10	5.5%	7	3.8%	7	3.8%	25	13.7%	129	70.9%	4	2.2%	182
19経皮・外用薬の投与を指導の下で実施している。	2	1.1%	3	1.6%	8	4.4%	50	27.5%	115	63.2%	4	2.2%	182
20坐薬の投与を指導の下で実施している。	1	0.5%	1	0.5%	1	0.5%	23	12.6%	152	83.5%	4	2.2%	182
21点滴静脈内注射の管理を指導の下で実施している。	3	1.6%	2	1.1%	2	1.1%	25	13.7%	146	80.2%	4	2.2%	182
22フィジカルアセスメントを指導の下で実施している。	57	31.3%	21	11.5%	17	9.3%	37	20.3%	46	25.3%	4	2.2%	182
23検体(尿、血液等)の取扱いを指導の下で実施している。	0	0.0%	2	1.1%	1	0.5%	27	14.8%	148	81.3%	4	2.2%	182
24簡易血糖測定を指導の下で実施している。	3	1.6%	1	0.5%	3	1.6%	52	28.6%	119	65.4%	4	2.2%	182
25検査の介助を指導の下で実施している。	1	0.5%	8	4.4%	9	4.9%	40	22.0%	120	65.9%	4	2.2%	182
26使用した器具の感染防止の取扱いを指導の下で実施している。	34	18.7%	8	4.4%	8	4.4%	38	20.9%	90	49.5%	4	2.2%	182
27感染性廃棄物の取扱いを指導の下で実施している。	55	30.2%	8	4.4%	10	5.5%	31	17.0%	74	40.7%	4	2.2%	182
28無菌操作を指導の下で実施している。	3	1.6%	2	1.1%	4	2.2%	12	6.6%	157	86.3%	4	2.2%	182
29針刺し事故の防止・事故後の対応を指導の下で実施している。	8	4.4%	3	1.6%	3	1.6%	20	11.0%	144	79.1%	4	2.2%	182
30安全な療養環境の整備(転倒・転落・外傷予防)を指導の下で実施している。	89	48.9%	24	13.2%	26	14.3%	19	10.4%	20	11.0%	4	2.2%	182
31安楽な体位の調整を指導の下で実施している。	36	19.8%	18	9.9%	19	10.4%	53	29.1%	52	28.6%	4	2.2%	182
32安楽の促進・苦痛の緩和のためのケアを指導の下で実施している。	55	30.2%	21	11.5%	12	6.6%	46	25.3%	44	24.2%	4	2.2%	182
33精神的安寧を保つためのケアを指導の下で実施している。	137	75.3%	12	6.6%	2	1.1%	6	3.3%	21	11.5%	4	2.2%	182
34-1経鼻胃チューブの挿入を指導の下で実施している。	2	1.1%	1	0.5%	1	0.5%	10	5.5%	164	90.1%	4	2.2%	182
34-2経鼻胃チューブの挿入を見学している。	2	1.1%	1	0.5%	1	0.5%	28	15.4%	146	80.2%	4	2.2%	182
35-1膀胱留置カテーテルの管理を指導の下で実施している。	1	0.5%	3	1.6%	1	0.5%	20	11.0%	153	84.1%	4	2.2%	182
35-2膀胱留置カテーテルの管理を見学している。	2	1.1%	3	1.6%	0	0.0%	37	20.3%	136	74.7%	4	2.2%	182

精神 項目36-1～53-2	1	2	3	4	5	6	回答数						
36-1導尿又は膀胱留置カテーテルの挿入を指導の下で実施している。	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	3.3%	172	94.5%	4	2.2%	182
36-2導尿又は膀胱留置カテーテルの挿入を見学している。	0	0.0%	1	0.5%	3	1.6%	27	14.8%	147	80.8%	4	2.2%	182
37-1洗腸を指導の下で実施している。	0	0.0%	2	1.1%	2	1.1%	10	5.5%	164	90.1%	4	2.2%	182
37-2洗腸を見学している。	2	1.1%	6	3.3%	4	2.2%	58	31.9%	108	59.3%	4	2.2%	182
38-1排便を指導の下で実施している。	1	0.5%	1	0.5%	1	0.5%	11	6.0%	164	90.1%	4	2.2%	182
38-2排便を見学している。	1	0.6%	1	0.6%	3	1.7%	37	20.4%	135	74.6%	4	2.2%	181
39-1ストーマ管理を指導の下で実施している。	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	8	4.4%	169	92.9%	4	2.2%	182
39-2ストーマ管理を見学している。	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	15	8.2%	162	89.0%	4	2.2%	182
40-1新生児の沐浴・清拭を指導の下で実施している。	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	2.2%	171	95.5%	4	2.2%	179
40-2新生児の沐浴・清拭を見学している。	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.7%	171	96.1%	4	2.2%	178
41-1口腔内・鼻腔内吸引を指導の下で実施している。	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	11	6.0%	165	90.7%	5	2.7%	182
41-2口腔内・鼻腔内吸引を見学している。	0	0.0%	1	0.5%	2	1.1%	32	17.6%	143	78.6%	4	2.2%	182
42-1気管内吸引を指導の下で実施している。	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	3.3%	172	94.5%	4	2.2%	182
42-2気管内吸引を見学している。	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%	16	8.8%	161	88.5%	4	2.2%	182
43-1体位ドレナージを指導の下で実施している。	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	3.8%	171	94.0%	4	2.2%	182
43-2体位ドレナージを見学している。	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	14	7.7%	164	90.1%	4	2.2%	182
44-1ドレーン類の挿入部の処置を指導の下で実施している。	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	3.8%	171	94.0%	4	2.2%	182
44-2ドレーン類の挿入部の処置を見学している。	0	0.0%	1	0.5%	1	0.5%	18	9.9%	158	86.8%	4	2.2%	182
45-1皮下注射を指導の下で実施している。	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	3.3%	172	94.5%	4	2.2%	182
45-2皮下注射を見学している。	1	0.5%	2	1.1%	1	0.5%	40	22.0%	134	73.6%	4	2.2%	182
46-1筋肉内注射を指導の下で実施している。	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	11	6.0%	166	91.2%	4	2.2%	182
46-2筋肉内注射を見学している。	2	1.1%	2	1.1%	2	1.1%	68	37.4%	104	57.1%	4	2.2%	182
47-1静脈路確保・点滴静脈内注射を指導の下で実施している。	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	11	6.0%	167	91.8%	4	2.2%	182
47-2静脈路確保・点滴静脈内注射を見学している。	3	1.6%	5	2.7%	2	1.1%	49	26.9%	119	65.4%	4	2.2%	182
48-1薬剤等の管理（毒薬、劇薬、麻薬、血液製剤、抗悪性腫瘍薬を含む）を指導の下で実施している。	6	3.3%	0	0.0%	3	1.6%	10	5.5%	159	87.4%	4	2.2%	182
48-2薬剤等の管理（毒薬、劇薬、麻薬、血液製剤、抗悪性腫瘍薬を含む）を見学している。	45	24.7%	13	7.1%	10	5.5%	25	13.7%	85	46.7%	4	2.2%	182
49-1輸血の管理を指導の下で実施している。	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.6%	174	95.6%	5	2.7%	182
49-2輸血の管理を見学している。	1	0.5%	2	1.1%	0	0.0%	11	6.0%	164	90.1%	4	2.2%	182
50-1止血法の実施を指導の下で実施している。	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.7%	174	96.1%	4	2.2%	181
50-2止血法の実施を見学している。	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%	12	6.6%	165	90.7%	4	2.2%	182
51-1静脈血採血を指導の下で実施している。	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	4	2.2%	173	95.1%	4	2.2%	182
51-2静脈血採血を見学している。	1	0.5%	2	1.1%	2	1.1%	49	26.9%	124	68.1%	4	2.2%	182
52-1人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防策の実施を指導の下で実施している。	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	2.2%	173	95.1%	5	2.7%	182
52-2人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防策の実施を見学している。	0	0.0%	1	0.6%	1	0.6%	9	5.0%	166	91.7%	4	2.2%	181
53-1医療機器（輸液ポンプ、シリンジポンプ、心電図モニター、酸素ポンプ、人工呼吸器等）の操作・管理を指導の下で実施している。	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	2.7%	173	95.1%	4	2.2%	182
53-2医療機器（輸液ポンプ、シリンジポンプ、心電図モニター、酸素ポンプ、人工呼吸器等）の操作・管理を見学している。	2	1.1%	2	1.1%	7	3.8%	50	27.5%	117	64.3%	4	2.2%	182

在宅 項目1~35-2	1	2	3	4	5	6	回答数						
1臥床患者のリネン交換を指導の下で実施している。	6	3.3%	13	7.1%	21	11.4%	66	35.9%	73	39.7%	5	2.7%	184
2食事指導を指導の下で実施している。	2	1.1%	10	5.5%	18	9.9%	74	40.7%	74	40.7%	4	2.2%	182
3経管栄養法による流動食の注入を指導の下で実施している。	1	0.6%	3	1.7%	10	5.5%	67	37.0%	96	53.0%	4	2.2%	181
4排泄援助(床上、ポータブルトイレ、オムツ等)を指導の下で実施している。	23	12.6%	14	7.7%	37	20.3%	63	34.6%	40	22.0%	5	2.7%	182
5移乗介助を指導の下で実施している。	13	7.1%	16	8.8%	34	18.7%	70	38.5%	45	24.7%	4	2.2%	182
6自動・他動運動の援助を指導の下で実施している。	6	3.3%	20	11.0%	37	20.3%	70	38.5%	45	24.7%	4	2.2%	182
7ストレッチャー移送を指導の下で実施している。	1	0.6%	0	0.0%	3	1.7%	17	9.4%	156	86.2%	4	2.2%	181
8入浴・シャワー浴の介助を指導の下で実施している。	13	7.2%	19	10.5%	40	22.1%	75	41.4%	30	16.6%	4	2.2%	181
9陰部の保清を指導の下で実施している。	18	9.9%	30	16.6%	38	21.0%	55	30.4%	36	19.9%	4	2.2%	181
10清拭を指導の下で実施している。	21	11.6%	29	16.0%	39	21.5%	58	32.0%	30	16.6%	4	2.2%	181
11洗髪を指導の下で実施している。	6	3.3%	10	5.5%	31	17.1%	78	43.1%	52	28.7%	4	2.2%	181
12口腔ケアを指導の下で実施している。	4	2.2%	15	8.3%	29	16.0%	75	41.4%	54	29.8%	4	2.2%	181
13点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換を指導の下で実施している。	0	0.0%	5	2.8%	16	8.8%	68	37.6%	88	48.6%	4	2.2%	181
14酸素吸入療法の実施を指導の下で実施している。	1	0.6%	4	2.2%	25	13.9%	71	39.4%	75	41.7%	4	2.2%	180
15ネブライザーを用いた気道内加湿を指導の下で実施している。	0	0.0%	2	1.1%	10	5.6%	55	30.6%	109	60.6%	4	2.2%	180
16褥瘡予防ケアを指導の下で実施している。	12	6.6%	13	7.2%	30	16.6%	70	38.7%	52	28.7%	4	2.2%	181
17創傷処置(創洗浄、創保護、包帯法)を指導の下で実施している。	1	0.6%	6	3.3%	13	7.2%	60	33.3%	96	53.3%	4	2.2%	180
18経口薬(バツカル錠、内服薬、舌下錠)の投与を指導の下で実施している。	4	2.2%	7	3.9%	13	7.2%	39	21.5%	114	63.0%	4	2.2%	181
19経皮・外用薬の投与を指導の下で実施している。	4	2.2%	7	3.9%	27	14.9%	60	33.1%	79	43.6%	4	2.2%	181
20坐薬の投与を指導の下で実施している。	0	0.0%	0	0.0%	8	4.4%	38	21.1%	130	72.2%	4	2.2%	180
21点滴静脈内注射の管理を指導の下で実施している。	0	0.0%	1	0.6%	8	4.4%	46	25.6%	121	67.2%	4	2.2%	180
22フィジカルアセスメントを指導の下で実施している。	76	42.0%	25	13.8%	20	11.0%	25	13.8%	31	17.1%	4	2.2%	181
23検体(尿、血液等)の取扱いを指導の下で実施している。	2	1.1%	3	1.7%	2	1.1%	30	16.7%	139	77.2%	4	2.2%	180
24簡易血糖測定を指導の下で実施している。	1	0.6%	2	1.1%	14	7.8%	56	31.1%	103	57.2%	4	2.2%	180
25検査の介助を指導の下で実施している。	1	0.6%	0	0.0%	1	0.6%	24	13.3%	150	83.3%	4	2.2%	180
26使用した器具の感染防止の取扱いを指導の下で実施している。	28	15.6%	4	2.2%	8	4.4%	42	23.3%	94	52.2%	4	2.2%	180
27感染性廃棄物の取扱いを指導の下で実施している。	35	19.4%	2	1.1%	9	5.0%	42	23.3%	88	48.9%	4	2.2%	180
28無菌操作を指導の下で実施している。	5	2.8%	3	1.7%	8	4.4%	35	19.4%	125	69.4%	4	2.2%	180
29針刺し事故の防止・事故後の対応を指導の下で実施している。	8	4.4%	2	1.1%	5	2.8%	28	15.6%	133	73.9%	4	2.2%	180
30安全な療養環境の整備(転倒・転落・外傷予防)を指導の下で実施している。	69	38.1%	18	9.9%	22	12.2%	36	19.9%	32	17.7%	4	2.2%	181
31安楽な体位の調整を指導の下で実施している。	55	30.4%	29	16.0%	27	14.9%	36	19.9%	30	16.6%	4	2.2%	181
32安楽の促進・苦痛の緩和のためのケアを指導の下で実施している。	43	23.8%	26	14.4%	26	14.4%	46	25.4%	36	19.9%	4	2.2%	181
33精神的安寧を保つためのケアを指導の下で実施している。	48	26.5%	32	17.7%	16	8.8%	44	24.3%	37	20.4%	4	2.2%	181
34-1経鼻胃チューブの挿入を指導の下で実施している。	2	1.1%	0	0.0%	3	1.7%	19	10.6%	152	84.4%	4	2.2%	180
34-2経鼻胃チューブの挿入を見学している。	1	0.6%	1	0.6%	18	9.9%	52	28.7%	105	58.0%	4	2.2%	181
35-1膀胱留置カテーテルの管理を指導の下で実施している。	7	3.9%	5	2.8%	15	8.4%	42	23.5%	106	59.2%	4	2.2%	179
35-2膀胱留置カテーテルの管理を見学している。	18	9.9%	20	11.0%	40	22.1%	77	42.5%	22	12.2%	4	2.2%	181

在宅 項目36-1～53-2	1	2	3	4	5	6	回答数						
36-1導尿又は膀胱留置カテーテルの挿入を指導の下で実施している。	0	0.0%	1	0.6%	3	1.7%	19	10.6%	153	85.0%	4	2.2%	180
36-2導尿又は膀胱留置カテーテルの挿入を見学している。	5	2.8%	4	2.2%	21	11.6%	91	50.3%	56	30.9%	4	2.2%	181
37-1洗腸を指導の下で実施している。	1	0.6%	1	0.6%	4	2.2%	23	12.8%	147	81.7%	4	2.2%	180
37-2洗腸を見学している。	26	14.4%	26	14.4%	35	19.3%	69	38.1%	21	11.6%	4	2.2%	181
38-1排便を指導の下で実施している。	0	0.0%	2	1.1%	7	3.9%	36	20.0%	131	72.8%	4	2.2%	180
38-2排便を見学している。	34	18.9%	33	18.3%	28	15.6%	66	36.7%	15	8.3%	4	2.2%	180
39-1ストーマ管理を指導の下で実施している。	2	1.1%	4	2.2%	10	5.6%	39	21.7%	121	67.2%	4	2.2%	180
39-2ストーマ管理を見学している。	8	4.4%	11	6.1%	45	24.9%	97	53.6%	16	8.8%	4	2.2%	181
40-1新生児の沐浴・清拭を指導の下で実施している。	1	0.6%	1	0.6%	1	0.6%	10	5.6%	163	90.6%	4	2.2%	180
40-2新生児の沐浴・清拭を見学している。	1	0.6%	1	0.6%	2	1.1%	14	7.8%	157	87.7%	4	2.2%	179
41-1口腔内・鼻腔内吸引を指導の下で実施している。	4	2.2%	2	1.1%	5	2.8%	38	21.0%	128	70.7%	4	2.2%	181
41-2口腔内・鼻腔内吸引を見学している。	17	9.4%	21	11.6%	42	23.2%	75	41.4%	22	12.2%	4	2.2%	181
42-1気管内吸引を指導の下で実施している。	2	1.1%	1	0.6%	2	1.1%	21	11.6%	151	83.4%	4	2.2%	181
42-2気管内吸引を見学している。	13	7.2%	15	8.3%	29	16.0%	94	51.9%	26	14.4%	4	2.2%	181
43-1体位ドレナージを指導の下で実施している。	1	0.6%	2	1.1%	7	3.9%	49	27.1%	118	65.2%	4	2.2%	181
43-2体位ドレナージを見学している。	7	3.9%	12	6.6%	20	11.0%	94	51.9%	44	24.3%	4	2.2%	181
44-1ドレーン類の挿入部の処置を指導の下で実施している。	1	0.6%	3	1.7%	3	1.7%	19	10.6%	150	83.3%	4	2.2%	180
44-2ドレーン類の挿入部の処置を見学している。	4	2.2%	7	3.9%	16	8.8%	85	47.0%	65	35.9%	4	2.2%	181
45-1皮下注射を指導の下で実施している。	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	13	7.2%	163	90.6%	4	2.2%	180
45-2皮下注射を見学している。	2	1.1%	9	5.0%	9	5.0%	83	45.9%	74	40.9%	4	2.2%	181
46-1筋肉内注射を指導の下で実施している。	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	11	6.1%	165	91.7%	4	2.2%	180
46-2筋肉内注射を見学している。	1	0.6%	4	2.2%	3	1.7%	53	29.3%	116	64.1%	4	2.2%	181
47-1静脈路確保・点滴静脈内注射を指導の下で実施している。	0	0.0%	0	0.0%	1	0.6%	11	6.1%	164	91.1%	4	2.2%	180
47-2静脈路確保・点滴静脈内注射を見学している。	2	1.1%	7	3.9%	18	9.9%	92	50.8%	58	32.0%	4	2.2%	181
48-1薬剤等の管理（毒薬、劇薬、麻薬、血液製剤、抗悪性腫瘍薬を含む）を指導の下で実施している。	1	0.6%	2	1.1%	1	0.6%	16	8.9%	156	86.7%	4	2.2%	180
48-2薬剤等の管理（毒薬、劇薬、麻薬、血液製剤、抗悪性腫瘍薬を含む）を見学している。	16	8.8%	9	5.0%	13	7.2%	81	44.8%	58	32.0%	4	2.2%	181
49-1輸血の管理を指導の下で実施している。	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	10	5.6%	166	92.2%	4	2.2%	180
49-2輸血の管理を見学している。	0	0.0%	1	0.6%	3	1.7%	23	12.7%	150	82.9%	4	2.2%	181
50-1止血法の実施を指導の下で実施している。	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	4.5%	167	93.3%	4	2.2%	179
50-2止血法の実施を見学している。	0	0.0%	0	0.0%	1	0.6%	29	16.0%	147	81.2%	4	2.2%	181
51-1静脈血採血を指導の下で実施している。	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	3.9%	169	93.9%	4	2.2%	180
51-2静脈血採血を見学している。	0	0.0%	1	0.6%	7	3.9%	76	42.0%	93	51.4%	4	2.2%	181
52-1人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防策の実施を指導の下で実施している。	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	9	5.0%	167	92.8%	4	2.2%	180
52-2人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防策の実施を見学している。	0	0.0%	0	0.0%	5	2.8%	23	12.7%	149	82.3%	4	2.2%	181
53-1医療機器（輸液ポンプ、シリンジポンプ、心電図モニター、酸素ポンプ、人工呼吸器等）の操作・管理を指導の下で実施している。	0	0.0%	1	0.6%	2	1.1%	20	11.1%	153	85.0%	4	2.2%	180
53-2医療機器（輸液ポンプ、シリンジポンプ、心電図モニター、酸素ポンプ、人工呼吸器等）の操作・管理を見学している。	14	7.7%	11	6.1%	44	24.3%	86	47.5%	22	12.2%	4	2.2%	181

表 8-1 その他、経験している技術項目 n=68

主な内容	件数
「看護師等養成所の運営に関するガイドラインの看護師教育の技術項目と卒業時の到達度」の「I：単独で実施できる」に設定された項目	34
リハビリテーション	10
子宮状態・乳房の確認	8
新生児・乳幼児の観察、ケア	8
精神状態の査定、精神症状コントロールのための支援	7
退院支援・指導	7
分娩時のケア	5
授乳支援	5
電気ショック療法、電気痙攣療法	4
検査の見学	4
多職種連携・カンファレンス	4
妊婦のレオポルド触診法	4
セルフケアの指導	4
腹膜透析	3
社会資源活用	3
子どもの IC, IA、治療的抑制、プリパレーション、ディストラクション	3
精神リハビリテーション、心理教育	2
介護予防プログラムの作成と実施	2
DVT 予防見学	2
気管挿管介助、挿管中の援助	2
新生児の黄疸計測	2
術前オリエンテーション	2
終末期ケア	2
12 誘導心電図、心音聴取 (DOP)	2
エンゼルケア	2
プリパレーションの見学・実施	1
分娩監視装置の装着	1
スピードトラックけん引のまき直し、けん引中の看護、管理	1
術後離床援助	1
リンパ浮腫予防管理指導	1
深呼吸法指導	1
認知機能検査	1
家族指導、保健指導	1
グリーフケアの見学	1
人工透析管理	1
補助循環装置の管理	1

5. 全国共通の CBT・OSCE の必要性および必要と思うもの

全国共通の CBT の必要性については、必要だと思うと回答した大学が 141 校 65.9%、必要ないと思うと回答した大学が 20 校 9.3%、その他と回答した大学が 53 校 24.8%であった（表 9）。必要だと思う理由では、117 校の回答が得られ、最も多かった回答は、「看護学生の知識・レベル・技術を担保する」67 件であった（表 9-1）。必要だと思わない理由では、16 校が回答し、最も多かった回答は「各大学のカリキュラムや教育方針が違うので、全国共通試験は難しいと考える」で 4 件であった（表 9-2）。その他の理由では、48 校から回答が得られ、最も多かった回答は「状況によって必要な知識は異なるため、共通化は困難」で 18 件であった（表 9-3）。

表 9 実習前必要の知識を確認・保証する全国共通の共用試験（Computer Based Testing：CBT）の必要性 n=214

設置主体	必要だと思う	必要ないと思う	その他	課程数
国立・省庁大学校	22 (68.8%)	1 (3.1%)	9 (28.1%)	32
公立	26 (61.9%)	3 (7.1%)	13 (31.0%)	42
私立	93 (66.4%)	16 (11.4%)	31 (22.1%)	140
全体	141 (65.9%)	20 (9.3%)	53 (24.8%)	214

表 9-1 実習前の必要な知識を確認・保証する全国共通の共用試験（Computer Based Testing：CBT）の必要性<必要だと思う理由>n=117

主な内容	件数
看護学生の知識・レベル・技術を担保する	67
担当患者の安心・安全を保障する	21
実習に対する看護学生の意識付け・理解促進する	16
看護学教育の質を保証する、格差是正	12
実習可能範囲の保証、拡大	10
患者に提供するケアの質を向上する	8
学生に実施させる実習内容の基準	6
効率的な実習の実施	5
実習指導にかかわる教員や施設スタッフの負担を軽減する	4
学生の実践能力を把握する	2
教員への動機づけ	1
自校の客観的評価ができる	1
社会への発信	1
入職時の職場適応しやすくなる	1
他の医療専門職が行っている	1
Student Nurse 制度を確立する	1

表 9-2 実習前の必要な知識を確認・保証する全国共通の共用試験（Computer Based Testing：CBT）の必要性<必要ないと思う理由>n=16

主な内容	件数
各大学のカリキュラムや教育方針が違うので、全国共通試験は難しいと考える	4
各教育機関や領域で確認できている	3
大学の独自性が失われる	2
実習環境が異なるので実施が難しい	2
独自の知識確認テストを実施している	1
臨地実習で実施機会がないので、不要である	1
事前の学修を確認するので足りる	1
どのように活用するかのかのくふうが必要である	1

表 9-3 実習前の必要な知識を確認・保証する全国共通の共用試験（Computer Based Testing：CBT）の必要性<その他の理由>n=48

主な内容	件数
状況によって必要な知識は異なるため、共通化は困難	18
現状で十分であり、検討していない	9
最低限の知識確認であれば全国共通 CBT にこだわらなくて良い	8
大学独自の実施で十分	6
負担が大きく、現状での実施は困難	6
大学規模による柔軟なシステム運用が必要	4
不合格者へのフォローが課題	4
最低限の知識を身に着けるためには有用	4
レベルの均一化が課題	3
社会的要請という意味では必要	1
合否の判断が不明確	1

全国共通の CBT を実施するにあたり、必要だと思うもので、最も多い回答は「試験問題作成の研修」189 校 88.3%で、次に多い回答が「試験監督の確保」158 校 73.8%、その他と回答した大学が 29 校 13.6%であった（表 10）。「その他」で最も多い回答は「人員・経験のある教員の確保」で 8 件であった（表 10-1）。

表 10 全国共通の CBT を実施するにあたり、必要と思うもの（複数回答可） n=214

CBT 実施にあたり必要と思うもの	回答数%
1. ICT 機器の確保	146 (68.2%)
2. ネット環境の整備	120 (56.1%)
3. 試験監督の確保	158 (73.8%)
4. 試験問題作成の研修	189 (88.3%)
5. 何が必要かわからない	18 (8.4%)
6. 特になし	7 (3.3%)
7. その他	29 (13.6%)

表 10-1 全国共通の CBT を実施するにあたり、必要と思うもの<その他>n=29

主な内容	件数
人員・経験のある教員の確保	8
問題の作成方法・問題作成	4
実施時間の確保、模擬事例	3
予算の確保	2
準備期間	2
学生等の説明資料	2
何が必要かわからない	2
学務の支援体制	1
医学歯学の共用試験の設備を活用できれば不要である	1
方法・実施内容	1
教育機関ごとの対応は難しい	1
運営ルール	1
医学部との調整	1
採点機器・結果分析者	1
場所の確保	1

全国共通の OSCE の必要性については、必要だと思うと回答した大学が 134 校 62.6%、必要ないと思うと回答した大学が 26 校 12.1%、その他と回答した大学が 54 校 25.2%であった（表 11）。必要だと思う理由については、107 校より回答が得られ、最も多い回答が「知識・技術・態度の一定水準の保障」で 71 件であった（表 11-1）。必要ないと思う理由では、18 校から回答が得られ、最も多い回答が「各大学で独自の試験を実施できている」6 件であった（表 11-2）。その他の理由では、47 校から回答が得られ、最も多い回答が「実施するための体制や設備が不足している可能性がある」14 件であった（表 11-3）。

表 11 実習前の必要な態度、技能を確認・保証する全国共通の客観的臨床能力試験 (Objective Structured Clinical Examination : OSCE) の必要性 n=214

設置主体	必要だと思う	必要ないと思う	その他	課程数
国立・省庁大学校	25 (78.1%)	1 (3.1%)	6 (18.8%)	32
公立	24 (57.1%)	4 (9.5%)	14 (33.3%)	42
私立	85 (60.7%)	21 (15.0%)	34 (24.3%)	140
全体	134 (62.6%)	26 (12.1%)	54 (25.2%)	214

表 11-1 実習前の必要な態度、技能を確認・保証する全国共通の客観的臨床能力試験 (Objective Structured Clinical Examination : OSCE) の必要性<必要だと思う理由>n=107

主な内容	件数
知識・技術・態度の一定水準の保障	71
共通した基準・評価になりうる	15
学生のレディネス。自信、プロフェッショナル意識の醸成	14
受け入れ施設、患者の安心、安全の確保	14
実践の機会の確保	9
社会に対する看護教育への信頼保障	5
必要だが、全国统一レベルでの実施は課題	3
多様な学生像への個別的配慮が困難	2
OSCE の合格と実践能力の習得は別	1

表 11-2 実習前の必要な態度、技能を確認・保証する全国共通の客観的臨床能力試験 (Objective Structured Clinical Examination : OSCE) の必要性<必要ないと思う理由>n=18

主な内容	件数
各大学で独自の試験を実施できている	6
各領域で演習をしている	3
実施の困難さと効果に疑問がある	3
評価が困難と思われる	2
現場で学べる	1
看護教育課程が多様なので、標準化できるか疑問である	1
実施時期が統一できない	1
知識の確認でよい	1
わからない	1

表 11-3 実習前の必要な態度、技能を確認・保証する全国共通の客観的臨床能力試験（Objective Structured Clinical Examination：OSCE）の必要性<その他の理由>n=47

主な内容	件数
実施するための体制や設備が不足している可能性がある	14
各大学や地域の特色を生かして態度や技能を確認するのがよい	11
共用試験の意義を見出せない	10
学生の質を担保することができる	10
領域によって意見が異なる	7
共用試験の共通理解に向けた検討と評価方法の確立が必要である	5
他の方法が適している可能性あり	3
共用試験合格を目指した教育になることに懸念がある	3
現状では必要性を判断できない	3
共用試験を実施する場合の教育体制が不十分であるときに学生に不利益が生ずる	2
臨床能力は隣地に出て向上させていくものである	2
臨地参加型実習での学びを深める効果を期待できる	2
共用試験が教育の質の担保になる	2
公平な実習機会確保が難しくなるため共用試験が必要である	2
社会的に要請されているため必要である	2
大学・学科で協議をしていない	2
卒業前に実施する方法もある	1
健康障害を持った対象に接するためには必要なことである	1
共用試験は学生にとってモチベーションにつながる可能性がある	1
共用試験で評価できることは限定的である	1

全国共通の OSCE を実施するにあたり、必要だと思うもので、最も多い回答は「模擬患者の確保」195 校 91.1%で、次に多い回答が「評価者の確保」189 校 88.3%であった（表 12）。その他では、24 校の回答が得られ、最も多い回答が「時間の確保」8 件であった（表 12-1）。

表 12 全国共通の OSCE を実施するにあたり、必要と思うもの（複数回答可）n=214

OSCE 実施にあたり必要と思うもの	回答数%
1. 評価者の確保	189 (88.3%)
2. 模擬患者の確保	195 (91.1%)
3. シミュレーターおよび指導体制	184 (86.0%)
4. 試験室の確保	140 (65.4%)
5. 何が必要かわからない	14 (6.5%)
6. 特になし	2 (0.9%)
7. その他	25 (11.7%)

表 12-1 全国共通の OSCE を実施するにあたり、必要と思うもの<その他>n=24

主な内容	件数
時間の確保	8
人員確保	6
模擬患者の育成	3
予算	3
教員の研修	2
場所の確保	2
何が必要かわからない	2
教育課程の延長	1
実施内容	1
学生数が多く実現性に疑問	1
学生・保護者への説明	1
シミュレーター	1
学生の練習環境	1
教員の時間の確保	1
教員体制等から無理がある	1

6. 臨地参加型実習を行うためにその他必要と思われること

学生が臨地参加型実習を行うために、その他必要と思われることで、最も多かった回答は「1. 実習場で指導にあたる人の配置」で174校84.9%、次に多かった回答は「3. 臨地参加型実習を行うための実習場と共有できる実習ガイドライン」で149校72.7%であった(表13)。その他の回答として、27校より回答が得られ、最も多い回答が「実習施設の理解や意識改革・確保」13件であった(表13-1)。学生が臨地参加型実習を行うために、「実習場で指導にあたる人の配置」が必要であると回答した大学へ「どのような実習場で、どのような人材が、どの程度足りないか」について尋ねた結果、149校より回答が得られ、場所では、書かれた内容で多いものが「病院」54件、人材では「教育的関わりができる人材(施設側)」116件、不足の程度では「現在の2倍以上の人数の確保が必要」が11件であった(表13-2)。学生が臨地参加型実習を行うために「4. 臨地参加型実習において看護学生が行う基本的な看護技術の水準の改訂」が必要であると回答した大学へ「実習ガイドラインについて、さらに充実させてほしい事項」について尋ねた結果、42校より回答が得られ、最も多かった回答が「臨床の状況に合わせた実施可能な見直し」6件であった(表13-3)。臨地参加型実習を行うにあたり「5. 法律や制度の改正」と回答した大学へ「具体的な意見」を尋ねた結果、40校の回答が得られ、最も多い回答は「学生の立場での医療参加の保証や保護、責任の明確化」で8件であった(表13-4)。

表 13 学生が臨地参加型実習を行うために、その他必要と思われること（複数回答可） n=205

学生が臨地参加型実習を行うために、その他必要と思われること	回答数%
1. 実習場で指導にあたる人の配置	174 (84.9%)
2. 育成学生像やカリキュラムなどの指針の改訂	100 (48.8%)
3. 臨地参加型実習を行うための実習場と共有できる実習ガイドライン	149 (72.7%)
4. 臨地参加型実習において看護学生が行う基本的な看護技術の水準の改訂	123 (60.0%)
5. 法律や制度の改正	77 (37.6%)
6. その他	27 (13.2%)

表 13-1 学生が臨地参加型実習を行うために、その他必要と思われること<その他> n=27

主な内容	件数
実習施設の理解や意識改革・確保	13
臨地実習指導者へのインテンシブや体制整備・精度	4
教育のための教員・補助者等確保のための制度	2
大学と臨床の課題共有や学習機会	2
対象者・市民の理解	2
教育期間の延長	1
領域により回答が異なる	1
負担にならないガイドライン	1
わからない	1

表 13-2 臨地参加型実習を行うにあたり「1. 実習場で指導にあたる人の配置」が必要であると回答した大学への設問「どのような実習場で、どのような人材が、どの程度足りないか」 n=149

主な内容		件数
場 所	病院（病棟、外来）、医療施設	54
	病院以外	17
	実習場の限定的記載なし	77
ど ん な 人 材	教育的関わりができる人材（施設側）	116
	施設側に専任の指導者が必要	47
	教育的関わりができる人材（大学側）	35
	教育的関わりができる人材（大学側か施設側か不明）	26
	看護実践能力のある教員	4
	教員の複数名確保が必要	2
	施設側でケアに参画する指導者以外の看護師	2
	大学教育を受けた施設スタッフ	1
	臨床指導医	1
不 足 程 度	現在の2倍以上の人数の確保が必要	11
	1-3名確保が必要	1
	これまでに比べて半減した	1

表 13-3 臨地参加型実習を行うにあたり「4. 臨地参加型実習において看護学生が行う基本的な看護技術の水準の改訂」が必要であると回答した大学への設問「実習ガイドラインについて、さらに充実させてほしい事項」 n=42

主な内容	件数
臨床の状況に合わせた実施可能な見直し	6
できるという基準の詳細	5
感染対策の充実	3
技術評価のためのルーブリック・評価方法	3
COVID-19 を踏まえた加筆修正	2
全面的な見直し	2
指導看護師の再教育	2
対象者への説明と同意を得るための手順	1
参加型とするには必ず経験をするとしないと実現困難	1
精神看護におけるコミュニケーションの充実	1
新人看護師と学生の水準の乖離をなくする	1
一概には言えない	1
フィジカルアセスメントの評価基準	1
診療の補助技術を実施する場合のガイドライン	1
臨地実習施設側の理解を促す事項の充実	1
実習内容とその根拠	1
高齢者に対応する技術	1
共用試験に合格した学生の技術水準の見直し	1
日常生活に楽しみをもたらすケア	1
療養環境を整える技術の充実	1
療養上の世話に関する技術の充実	1
学生が指導下で実施できる最低限の項目	1
基本的な看護技術の水準	1
臨床実践能力の向上	1

表 13-4 臨地参加型実習を行うにあたり「5. 法律や制度の改正」と回答した大学への設問「具体的な意見」 n=40

主な内容	件数
学生の立場での医療参加の保証や保護、責任の明確化	8
教員数増加や実習施設の指導者配置の制度化や病院への補助金	6
Student nurse 制度	5
医師法改正と同様の保助看法の改正	4
徹底には義務づけが不可欠	3
周知のための方策・社会の認知	2
インターン、卒後研修制度や教育年限の延長	2
CBT、OSCE 等の基準での学生の知識技術の保証	2
学生の指導下での実施可能な医療行為、記録方法の指針	1
臨地参加型実習の必要性の法制化	1
教員が病院で実施できるための制度	1
CBT、OSCE の目的と試験の位置づけ	1
病院内で学生が学習しやすい環境整備	1
侵襲性の高い看護技術を実施するための条件の明確化	1
学生の能力と臨地で実施できる内容の乖離の縮小	1
指定規則ではない大学のディプロマポリシーやカリキュラムポリシーをもとに設計できる制度	1
実習指導者の資格制度	1

実習前の学生の知識、態度や技能の質保証のために行っているもので、最も多かった回答は「教科目ごとの実習前の態度・技術確認のための実技試験」で115校65.3%だった。「実習前の態度・技能確認のための教科目を超えた客観的臨床能力試験（OSCE）」は28校15.8%の回答だった（表14）。この28校のうち、「カリキュラムに位置づけている」と回答した大学は17校60.7%（表14-1）だった。「科目名」では、総合的・統合的実習を意味する名称や、技術・スキル・実践が含まれる名称、基礎・導入という初歩的な位置づけを示すような名称、領域を示す名称等、多岐にわたっていた（表14-2）。OSCE実施にあたって用いているものでは、「教職員による模擬患者」「シミュレーター」が共に12校50.0%と最も多い回答であった（表14-3）。OSCE実施にあたって用いているものの「その他」の回答は4校から得られ、「地域住民の協力」が2件と最も多かった（表14-4）。実習前の学生の知識、態度や技能の質保証のために行っているものの「その他」の意見では、77校の回答が得られ、最も多かった回答は「実習に必要な技能の練習」18件であった（表14-5）。

表 14 実習前の学生の知識、態度や技能の質保証のために行っているもの（複数回答可） n=177

実習前の学生の知識、態度や技能の質保証のために行っているもの	回答数%	
1. 実習前の知識確認のための教科目を超えた試験 (CBT または Paper Based Testing : PBT)	11	(6.2%)
2. 実習前の態度・技能確認のための教科目を超えた客観的臨床能力試験 (OSCE)	28	(15.8%)
3. 教科目ごとの実習前の態度・技能確認のための実技試験	116	(65.5%)
4. その他	77	(43.5%)

表 14-1 実習前の学生の知識、態度や技能の質保証のために「2. 実習前の態度・技能確認のための教科目を超えた客観的臨床能力試験 (OSCE)」を実施していると回答した大学への設問：カリキュラムに位置付けているか n=28

カリキュラムに位置付けているか	回答数%
はい	17 (60.7%)
いいえ	7 (25.0%)
未回答	4 (14.3%)

表 14-2 実習前の学生の知識、態度や技能の質保証のために「2. 実習前の態度・技能確認のための教科目を超えた客観的臨床能力試験 (OSCE)」を実施していると回答した大学への設問：カリキュラムに位置付けている場合の「科目名」

科目名
・総合看護活動論 (旧カリキュラム)、実践看護技術演習 (新カリキュラム)
・成人看護学演習 (2023 年度より実施予定)
・看護導入実習
・3 年生：看護学総括演習、4 年生：総合実習
・4 年次卒業演習、3 年・4 年次の各領域実習前の各演習科目 (周産期保健看護演習、小児保健看護演習、成人保健看護演習、精神保健看護演習、老年保健看護演習、クリティカル・緩和ケア演習、地域保健看護演習)
・科学的思考基礎演習VI
・スキルラボ臨床レベル 3
・基礎看護技術IV
・基礎看護援助方法 V
・看護援助演習 I、看護援助演習 II、母性看護学実習、看護援助演習IV
・看護実践統合演習
・母性看護方法演習
・コミュニケーション・リテラシー
・看護学基礎演習 I (1 年通年配置) 看護学基礎演習 II (2 年通年配置)
・臨床看護技術演習：4 年次

・実践総合演習
・看護展開導入演習

表 14-3 実習前の学生の知識、態度や技能の質保証のために「2. 実習前の態度・技能確認のための教科目を超えた客観的臨床能力試験 (OSCE)」を実施していると回答した大学への設問：

カリキュラムの中で「OSCE 実施にあたって用いているもの (複数回答可) n=24

OSCE の実施で使用しているもの	回答数%
1. 教職員による模擬患者	12 (50.0%)
2. 学生による模擬患者	8 (33.3%)
3. 患者団体等の模擬患者	10 (41.7%)
4. シミュレーター	12 (50.0%)
5. その他	4 (16.7%)

表 14-4 OSCE の実施で用いているもの<その他>n=4

主な内容	件数
地域住民の協力	2
実習病院看護師の協力	1
大学職員の協力	1

表 14-5 実習前の学生の知識、態度や技能の質保証のために行っているもの<その他>n=77

主な内容	件数
実習に必要な技能の練習	18
事前演習	11
実習開始に向けた、履修認定	8
実習前の技能確認のための試験	7
実習前オリエンテーション	6
シミュレーション学習	6
実習に必要な知識の確認	5
実習に必要な技術の確認	5
事前課題	4
実習態度の確認	4
定期試験、演習中の評価	3
教科ごとの知識確認試験	2
育成指針やカリキュラムなどの指針改訂	1
卒業生の能力調査によるカリキュラム評価	1
自己学習ノートの提出	1
看護技術の自己練習	1
集中講義による事前演習	1
科目内で OSCE 実施	1

模擬患者を活用した知識・技術・態度演習	1
動画を活用した技術演習	1
ナーシングスキルを用いたテスト	1
ケアプラン・プロセスレコード習得	1
母性・在宅のみ e-ラーニングによる試験実施	1
リスクマネジメント	1
既習知識や技術を統合させ個別性を踏まえた看護実践、また対人関係能力を養う科目設定	1

7. CBT や OSCE の課題等

実習前の知識確認のための教科目を超えた試験についての課題では、51 校から回答が得られ、「人材の課題」が 7 件と最も多かった（表 15）。OSCE についての課題では、66 校より回答が得られ、「人的・物的・時間的リソースの不足」が 31 件と最も多い回答であった（表 16）。本調査に関するその他意見では、30 校から回答が得られ、「アンケート様式や回答に関する意見」が 7 件と最も多く、その他、教育について幅広い意見が得られた。複数の意見があったのは、「過密なカリキュラムでの調整や準備が課題である」「臨地実習で学ぶことを重視する」「代替実習の検討が難しい」「臨床能力の考え方と多様性と標準化の意見交換が必須である」「実習側の意見も調査する必要がある」であった（表 17）。

表 15 実習前の知識確認のための教科目を超えた試験についての課題 n=51

主な内容	件数
人材の課題	7
カリキュラム上の位置づけ	5
科目を越えた試験の具体の取り決め	5
試験時間の確保	5
試験内容の質	5
対応する教員の不足	4
教員の日程調整	3
試験問題の妥当性を担保するための検証	2
試験不合格時の取り決め	2
公正な環境の中で試験を受けさせること	2
実習前の知識の基準の検討	2
学生への負荷の増大	2
評価者の数と質	2
作問の負担	2
CBT 試験の全国レベルを総括する組織やシステムの構築	1
ガイドライン	1
試験を行ったことにより実習に役立ったかの成果評価	1
準備期間の確保	1
限られた出題数の中で網羅することの困難	1

教員の知識不足への対策	1
一定水準に達しない学生への対策	1
試験内容の合意形成	1
論理的思考を求めること	1
予算の確保	1

表 16 実習前の態度・技能確認のための教科目を超えた客観的臨床能力試験（OSCE）についての課題 n=66

主な内容	件数
人的・物的・時間的リソースの不足	31
実施体制構築に対する教員の負担	11
OSCE を実施する教員の指導・評価能力の向上	11
看護として統一した OSCE 実施のためのガイドラインの作成	10
看護能力を観る課題設定の複雑さ	7
患者・家族の状況によって異なる不明確な評価	7
OSCE のカリキュラムの位置づけ	7
模擬患者の育成	7
OSCE に向けた学生指導体制の困難	6
マニュアル化することによる画一的評価の弊害	2
垣根のない看護学領域の協力の必要性	3
過密なカリキュラムの中での学生の負担	3
無資格学生の医療ケアに係る安全確保のための法整備	1
OSCE 導入による卒業時到達目標の見直し	1

表 17 本調査に関するその他意見 n=30

主な内容	件数
アンケート様式や回答に関する意見	7
過密なカリキュラムでの調整や準備が課題である	2
臨地実習で学ぶことを重視する	2
代替実習の検討が難しい	2
臨床能力の考え方と多様性と標準化の意見交換が必須である	2
実習場側の意見も調査する必要がある	2
シャドウイングを取り入れた実習方法の工夫も必要	1
実習病院の体制による影響がある	1
卒業生の質の担保も課題である	1
コロナにより技術演習方法も後退している	1
科目横断的に話し合う時間の確保が課題である	1
学生数が 100 人以上いる大学での OSCE 導入は困難である	1
OSCE 導入により各領域の情報共有ができていない	1

共用試験導入時期や準備等知りたい	1
他学の取り組みを聞きたい	1
社会全体の合意が必要	1
日ごろから誠実さや他者尊重を学ばせる必要がある	1
共用試験に合格できない学生が生じることを危惧する	1
臨地参加型実習ができることはよいと思う	1
学生のモチベーションが向上する方法を検討したい	1
実習施設確保が困難である	1
CBT、OSCE は必要だが、まだ時期尚早と考える	1
全国レベルでの CBT、OSCE の整備をお願いしたい	1

IV. 今後に向けて

本調査結果から、臨地参加型実習について、回答校の92.5%が必要と回答したことから、臨地参加型実習ができることを目標に日本看護系大学協議会が活動していく必要性が確認された。しかし、全体的に臨地参加型実習ができているという回答が半数を切ったため、臨地参加型実習がどのようにするとできるのか検討していく必要がある。

臨地参加型実習ができていない理由で最も多かったのは、「実習施設が、医療安全の面からリスクを減らすために実施を制限している」で、次に多かったのは「実習前の学生の技術レベルが不十分であり実施できない」である。実習は実習場の協力があって成立するため、実習場側との意見交換や厚生労働省と連携した実習場での実習の在り方を検討していく必要がある。また、2番目に多かった学生側の状況は教育現場として対策を検討していく必要がある。

今回、学生の臨地実習前の知識、技能、態度を保証する共用試験としての CBT、OSCE の必要性等について尋ねたが、CBT については、65.9%、OSCE については、62.6%必要と回答し、必要と考えている大学が多い結果であり、日本看護系大学協議会として、CBT、OSCE の在り方を検討していく必要があると考える。CBT、OSCE を実施するにあたって、「試験問題作成の研修」「試験監督の確保」「模擬患者の確保」「シミュレーターおよび指導体制」をはじめとする多くの課題もあり、同時にこれらの課題についても検討する必要がある。その中で、大学独自の OSCE を実施していると回答した大学が 28 校あったため、先駆的に行っている大学から情報収集することで参考になると考える。

今回、学生のチーム医療としての参加状況と「看護師等養成所の運営に関するガイドラインの看護師教育の技術項目と卒業時の到達度」を参照し、学生の卒業時の到達レベルが「Ⅱ. 指導の下で実施できる」と設定された看護技術と「Ⅲ. 実施が困難な場合は見学する」と設定された看護技術について、領域別に初めて尋ねた。特にⅢの技術を経験している学生が少ない結果だった。今後、臨地実習前にどういう学生像が必要か、エビデンスをもとに明確にし、そのために CBT で問うべき知識、OSCE で確認しておくべき態度・技能、経験すべき技術を絞りこむことが必要と考える。経験すべき技術が明確になったところで、実習場ですべての学生が経験するのが難しい内容については、DX の技術を活用して教材を開発していく必要があると考える。

<https://doi.org/10.32283/rep.86d7cf34>